

スポーツ科学部の学生確保の見通し等を記載した書類

1 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

(1) 学生の確保の見通し

①定員充足の見込み

スポーツ科学部の入学定員は、170人に設定している。山梨学院大学の既設学部は、健康栄養学部と国際リベラルアーツ学部を除き、170人から220人の範囲で入学定員が設定されており、既設学部と比較した場合にもスポーツ科学部の入学定員は多くならないように設定されている。また、全国のスポーツ系大学・学部のなかで学部名称に「体育」「スポーツ」がついている大学32校（その内の26大学は「全国体育系大学学長・学部長会議加盟校」である。）において、本学部と同様に1学科のみを有する大学14校の入学定員をみると、151人から200人が4校、200人から250人が6校であった（最小は70人、最大は400人である。）ことから、本学部の定員も他大学と比べて突出したものにならないように設定されている。また、170人とすることで、専門教育科目の専任教員（計20人）1人当たりの学生数は8.5人となり、学生と教員の意思の疎通が図りやすくなると考えている。

本学では、スポーツ科学部の入学者の確保について検証するために、高校生を対象とした「山梨学院大学『スポーツ科学部』（仮称）設置に関するニーズ調査」を実施した。この調査結果によると、高校2年生（平成26（2014）年12月時点）2,942人がスポーツ科学部を「受験したいと思う」と回答し、このうち2,689人がこの学部「入学したいと思う」と回答している。入学定員170人に対して、「受験したいと思う」かつ「入学したいと思う」という入学意向を示した者の数は、約15.8倍に達している。このことから、ここに設置認可申請を行ったスポーツ科学部については、開設時の入学者として想定される高校生から強い入学意向が示されており、入学者の確保は十分に可能であると判断している。（資料「山梨学院大学『スポーツ科学部』（仮称）設置に関するニーズ調査結果報告書／高校生」を参照）

本学の既設学部の過去5年の入学者の状況について、合格者に対する入学者の割合をみると、平成22（2010）年度入試においては約74.9%、平成23（2011）年度入試においては約74.5%、平成24（2012）年度入試においては約72.7%、平成25（2013）年度入試においては約71.1%、平成26（2014）年度入試においては約69.5%であった。年度によって若干の変動はあるものの、直近2年の入試では、合格者のうち70%程度の者が実際に入学するという状況である。このような近年の入試結果を参考に推計すると、仮に平成26（2014）年度入試と同じ入学状況（合格者のうち約69.5%が入学）であるとすれば、170人の入学者を確保するためには、約245人の合格者が必要なことになる。上記のアンケート調査結果において入学意向を示した者の数は、この10倍を超えている。このように、これまでの本学の入試結果に基づいた推計によっても、十分に入学者の確保が可能であると考えている。

長期的な視点から考えると、全国の18歳人口は減少していくことが確認されており、スポーツ科学部が開設される本学キャンパスの立地する山梨県においても、平成27（2015）年度から平成32（2020）年度までは8,000人台で推移し、それ以降は7,000人台に減少することが予測されている。しかし、文部科学省「学校基本調査」に基づいて、平成22（2010）年度と平成26（2014）年度における他の都道府県から山梨県内大学への進学状況を比較分析してみると、東京・神奈川・静岡からの進学者が増加していることが確認できる。平成22（2010）年度に山梨県内の大学に進学した者のうち、東京都出身者は358人、静岡県出身者は357人、神奈川県出身者は214人であったが、平成26（2014）年度には東京都出身者は455人、静岡県出身者は362人、神奈川県出身者は223人といずれも増加していることが確認できる。このように近隣の都県からは、山梨県内大学への進学者数が増加傾向にあることから、長期的な視点から学生の確保の見通しを検討した場合にも、近隣の都県からの入学者確保の

可能性も十分にあるものと考えており、山梨県以外でも積極的な入試広報活動を展開していく予定である。また、ベネッセコーポレーションの調査によると、全国の私立大学が設置する「体育・健康科学」系統の学部学科の志願者数は、平成 24 (2012) 年度から平成 26 (2014) 年度にかけて一貫して上昇傾向にあることから、この学問系統における全国的な募集環境は、比較的良好な状況が続いているといえる。以上の分析によれば、スポーツ科学部の学生募集の環境は、比較的良好であると判断できると考えている。(資料「全国私立大学【体育・健康科学科系統】志願状況3カ年推移」を参照)

なお、本学が立地する山梨県に限定してアンケート調査の結果を分析した場合にも、入学定員 170 人を超える入学意向を確認することができる。アンケート調査をクロス集計して、「山梨県の高校に通っている」かつ「私立大学への進学を希望」かつ「体育学・スポーツ科学、健康科学に関心がある」と回答した者で入学意向を示した者は 216 人で、入学定員を十分に上回っている。(資料「受験意向別入学意向詳細クロス集計表」を参照)

②定員充足の根拠となる調査結果の概要

本学では、スポーツ科学部設置認可申請に先立ち、平成 26 (2014) 年 12 月に全国の高等学校 133 校の協力を得て、「山梨学院大学『スポーツ科学部』(仮称) 設置に関するニーズ調査」を実施し、高等学校第 2 年次に在学中の生徒(いわゆる高校 2 年生) 40,127 人を対象とした入学意向調査を実施した。この調査は、株式会社進研アドとの間に業務委託契約を締結して依頼のうえ調査を実施したものであり、調査結果は本学以外の第三者機関によって実施され、その結果が報告書として取りまとめられている。この調査は本認可申請に係る書類提出の直前に行われたものであり、調査の対象も新設学部の初めての入学者(開設予定年度の入学者)となることが想定される、平成 26 (2014) 年 12 月時点で高等学校第 2 年次に在籍中の生徒に限定して実施している。調査対象の高等学校については、本学の既設学部(法学部、現代ビジネス学部、経営情報学部、健康栄養学部)への入学者の出身高等学校のうち、高校訪問等の入試広報活動を毎年、継続的に行っている学校で、かつ、直近 4 年間に複数の入学者がいた高等学校に限定して調査協力依頼を行った。このため、調査対象となった高等学校は、今後も入試広報における関係性が継続されることが予定されており、すでに本学既設学部への入学者が複数名いるという実績もあることから、調査対象としては適切であると考えている。調査結果の集計によると、133 の高等学校の協力を得て、高校 2 年生 23,451 人分の有効回答を得ることができた。

調査に際しては、調査票(アンケート用紙)と同時に配布したリーフレットに、本大学名と、設置構想中の学部の名称として「スポーツ科学部」を掲げて、「設置の趣旨等を記載した書類」で述べた新設学部の設置の趣旨を示した上で、各コースで養成しようとする人材像について「設置の趣旨等を記載した書類」に記した内容を中央の概念図の中に明示するとともに、将来の進路として想定される具体的な人材像を例示した。このほかに、新設学部の立地とアクセス、学生納付金、教育課程の特色となる点について説明している。調査票では、入学意向を質問する項目(Q5)において「①入学したいと思う」と「②入学したいと思わない」という選択肢によって、入学の意思を明確に確認できるようにしている。以上のように、本学が実施した「山梨学院大学『スポーツ科学部』(仮称) 入学意向調査」は、新設学部の入学定員充足の根拠として、客観性・適切性が担保されていると考えている。なお、調査時には、入学定員を 160 人と記載していたが、その後、他大学のスポーツ系学部の定員設定の状況やニーズ調査の結果を踏まえて入学定員を 170 人として申請することとしたが、このような変更が高校生の入学意向に影響を与えることはないと考えられる。

この調査の結果、新設学部を「受験したいと思う」と回答した者は 2,942 人(有効回答のうち 12.5%)であった。この受験意向を示した回答者(2,942 人)のうち、新設学部「入学したい」と回答した者は 2,689 人(受験意向を示した回答者のうち 91.4%)であった。このように、入学定員 170 人に対して、17 倍程度の受験者が確保されると期待できるとともに、強い入学意向を示した高校生も入学定員に対して 15 倍を超えていることから、入学定員の充足は十分に可能であると判断して

いる。調査対象となっている高等学校は本学の継続的な入試広報の対象となっているだけではなく、直近4年間にも入学者がいるという関係性の非常に強い高校であることから、上記の結果に基づけば、安定的な入学者の確保が可能であると考えている。

また、上記の調査において、新設学部の教育の特色について、その魅力度を調査したところ、質問項目として掲げた5つの項目いずれについても68%以上の高校生が魅力を感じると答えている（「とても魅力を感じる」と回答した者と「ある程度魅力を感じる」と回答した者の合計数で魅力度をはかっている）。具体的には、(A) 競技スポーツの実績のある山梨学院大学において、競技スポーツと生涯スポーツを核にしてスポーツを専門的に学ぶことができる点については、「とても魅力を感じる」と回答した者が19.6%（4,597人）、「ある程度魅力を感じる」と回答した者が49.0%（11,500人）で、両者を合わせると68.6%（16,097人）が積極的な回答を示している。(B) 授業では、スポーツ科学部の知と技を、共通科目・コース科目・キャリア形成科目へと段階的に学ぶことができる点については、「とても魅力を感じる」と回答した者が18.0%（4,219人）、「ある程度魅力を感じる」と回答した者が50.8%（11,916人）で、両者を合わせると68.8%（16,135人）が積極的な回答を示した。

(C) 卒業後の進路として想定されるアスリート、競技スポーツや生涯スポーツの指導者・科学的サポートスタッフ・マネジメントスタッフ、体育教師、スポーツ行政関連の公務員、スポーツ関連企業やスポーツに関わる国際的な場で活躍する人などを目指して、各自の興味・関心や将来設計（生き方）と関連づけて学ぶことができる点については、「とても魅力を感じる」と回答した者が24.2%（5,671人）、「ある程度魅力を感じる」と回答した者が46.3%（10,852人）で、両者を合わせると70.5%（16,523人）が積極的な回答を示した。(D) 各種競技スポーツにおいて指導経験豊富な教員・コーチや、スポーツを基礎的に実践的に研究している教員のもとで、実践と理論の両面からスポーツ科学に取り組むことができる点については、「とても魅力を感じる」と回答した者が23.9%（5,604人）、「ある程度魅力を感じる」と回答した者が46.8%（10,975人）で、両者を合わせると70.7%（16,579人）が積極的な回答を示した。(E) 各種のスポーツ施設や、スポーツを心技体の面から学ぶ実験・実習施設が整備されている点については、「とても魅力を感じる」と回答した者が30.8%（7,229人）、「ある程度魅力を感じる」と回答した者が43.7%（10,244人）で、両者を合わせると74.5%（17,473人）が積極的な回答を示した。

上記の結果を分析してみると、新設学部の教育の特色として掲げた項目の中でも、学生の個性を重視して各自の将来設計に基づいた授業履修ができる教育課程の仕組み（質問項目（C）の特色）、学問知と実践知・経験知を融合するための教育の提供（質問項目（D）の特色）、スポーツの心技体を学ぶための充実した教育環境の整備（質問項目（E）の特色）については、いずれも70%を超える高い魅力度が示されている。特に、新設学部の教育の基本的な考え方を特色として示した（C）と（D）を魅力的と考える回答者が多かったことは、新設学部の初めての入学者（開設予定年度の入学者）となる学生にとって、新設学部の教育内容が極めて魅力的なものであることを示している。

以上のように、この調査結果は、新設学部の教育が現在の高校生のニーズに合致しており、高校生に魅力的なものとなっていること、また、新設学部に入学者意向を示した高校生が入学定員の15倍以上存在したことを示しており、新設学部が入学定員170人を上回る学生を確保する見通しであることを示す客観的な根拠となるものである。

③ 学生納付金の設定の考え方

学生納付金（学費等納入金）については、入学金200,000円は本学の既設学部と同額であり、教育充実費310,000円（年額、半期分納あたり155,000円）も既設学部の310,400円とほぼ同額である。新設学部の授業料については、795,000円（年額、半期分納あたり397,500円）に設定している。この他に、実習費として90,000円（年額、半期分納あたり45,000円）がある。新設学部の学生納付金の総額（年額）は、初年次（第1年次）が1,395,000円、第2年次以降は1,195,000円となる。また、納入方法は、各年度始めに一括納入か、前期・後期のそれぞれ始めまでに分納（2回）することとし

て定めている。本学の既設学部と比較した場合、新設学部の授業料が年間で 95,400 円高く設定されており、実習費 90,000 円の負担もあるが、新設学部の教育課程においては、本学の法学部や現代ビジネス学部と異なり、実験・実習も多数配置されていることから、このような学生納付金の設定を行った。

私立大学が設置しているスポーツ系学部について、入学金を除いた学生納付金の年額を調査したところ、110 万円台から 120 万円台に設定した大学が多いことがわかる（金額の高い順に示すと、①早稲田大学スポーツ科学部 1,491,000 円、②国士舘大学体育学部 1,298,480 円、③国際武道大学体育学部 1,229,000 円、④東海大学体育学部 1,228,000 円、⑤法政大学スポーツ健康学部 1,221,000 円、⑥中京大学スポーツ科学部 1,220,000 円、⑦桐蔭横浜大学スポーツ健康政策学部 1,179,800 円、⑧順天堂大学スポーツ健康学部 1,150,000 円、⑨東京国際大学スポーツ科学部 1,120,000 円、⑩日本体育大学体育学部 1,110,000 円である）。新設学部の充実した教育課程を維持しながら、他大学の学費設定の状況を踏まえて、120 万円台を超えた学費設定を避けることを基本として、学部の運営経費の試算に基づいて 1,195,000 円という年額を設定した。

このように、現在の学費設定は、本学の既設学部と比較した場合にも差額が半期で 10 万円未満となっており、他大学の同系学部と比較した場合にも高額とはなっていない。また、学生納付金を明示した高校生に対する入学意向調査においても、入学定員の 15 倍以上の者が強い入学意向を示しており、本学が備える充実した施設・設備といった学習環境を魅力的と回答した学生の割合が特に高かったことも踏まえると、現在の学生納付金の設定は適切なものであると判断している。

(2) 学生確保に向けた具体的な取組状況

新設学部の学生確保に向けた具体的な取組として、これまでに入学実績の高い高等学校などを中心に、本学の経営情報学部の学生募集停止の可能性とスポーツ科学部の設置認可申請を構想している旨の連絡を行っているが、その後の高校訪問の際に、スポーツ科学部の開設時期や入学者選抜の方式について早期に知らせてほしいという要望が寄せられるなど、高等学校関係者から非常に高い関心が示されている。設置認可申請書を提出した後は、高等学校関係者と受験生・保護者を対象とした入試広報活動を展開し、いずれの場合にもメディアを通じた広報などによって、企画の内容を十分に周知したうえで実施するように努める計画である。

高等学校関係者を対象とした入試広報活動として、本学では 300 校以上の高等学校を訪問して本学の教育研究活動や入試制度について説明を行っている。また、山梨県内の高等学校関係者を招いて教職員が説明を行うだけでなく、質問にも個別に対応するための進学説明会を開催している。平成 27 (2015) 年度も、既設学部と新設学部の入試広報のためにこれらの活動を実施する予定である。平成 28 (2016) 年度開設分の設置認可申請から、設置認可申請手続の時期や認可書交付の時期が早まったことを踏まえると、高等学校が夏季休業に入る 7 月末までに十分な広報活動を展開する必要があると考えている。そこで、上記 (1) に記載した高校生対象のニーズ調査アンケートの協力対象校を中心に、本学への継続的な入学実績が確認できる高等学校には、設置認可申請書の提出後すぐに、その事実を伝達し今後の入試広報活動の予定を告知する文書を発送する計画である。その後、5 月以降 7 月末までの期間を利用して、高等学校を直接訪問して、新設学部の教育の特色や入試制度について説明を行う計画である。本学では、例年、約 300 校以上の高等学校を訪問してきたが、平成 28 (2016) 年度入試に向けた広報はスポーツ振興に力を入れている全国の高等学校にも範囲を拡大する計画である。また、本学の強化指定クラブでは、高校生が出場する各競技の大会に合わせて、本学の取組みを PR する活動を続けている。本年度は、このような機会を活用して、新設を目指すスポーツ科学部に關する情報を高等学校におけるスポーツ指導者にも伝えることができるように努めたい。

高等学校在学中の生徒や保護者を対象とした入試広報活動としては、受験情報誌・ホームページや進学相談会の際に資料請求のあった者に対する大学案内・入試関連資料の送付のほか、インターネットのホームページ（本学独自のホームページや受験情報サイトのホームページへの情報掲出）やオー

ブンキャンパスを通じた直接的な情報提供を行っている。平成 27 (2015) 年度は設置認可申請書の提出やその後の審査のスケジュールが早まったことを踏まえて、申請書提出後にホームページへの入試情報の提供を開始し、高校訪問によって高校関係者に伝達する情報をホームページからも入手することができるようにする。また、本学に対して資料請求を行った者には、平成 27 (2015) 年度に実施するオープンキャンパスの情報も郵送によって個別に告知することとしている。本学ではこれまで、6 月下旬の土曜日、7 月中旬の土曜日と日曜日、8 月下旬の土曜日と日曜日、9 月下旬の土曜日、10 月中旬の土曜日の合計 7 回のオープンキャンパスを開催しており、平成 27 (2015) 年度は新設学部の入試広報も盛り込んだ内容を企画している。いずれのオープンキャンパスにおいても、新設を予定するスポーツ科学部の特設コーナーを設けて教育の理念や特色、入試制度について紹介するほか、スポーツ科学の実際の学びを体験することができる企画も用意して学生の興味を喚起するように努める計画である。また、受験生や保護者からの入学者選抜に関する相談に個別に対応する機会も設定することにする。

設置認可後は、直ちに入試要項を持参して再度の高校訪問を実施するとともに、認可後 1 カ月以内には受験生と保護者を対象とした入試説明会を開催して、スポーツ科学部に興味・関心を有する者が着実に出願に至るように、情報提供を行う計画である。また、オープンキャンパスへの参加者や認可前に資料請求を行った者に対しても、認可後には改めて入試要項等の情報提供を速やかに行うこととする（個人情報の適切な利用の観点から、希望しない者については、当然に対象から除外する）。

2 人材需要の動向等社会の要請

(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

ここに設置しようとするスポーツ科学部は、競技力向上にかかわる科学的サポート体制を整備するとともに、スポーツ活動を通じて「社会に貢献する人間を育成する」教育体制を整えることが必要であるとの認識から、「スポーツ基本計画」が掲げた「スポーツ界における好循環の創出に向けたトップスポーツと地域におけるスポーツとの連携・共同を推進する」という政策目標を踏まえて、競技者の育成と、育成された競技者が地域の指導者となる好循環システムに貢献できるように、競技スポーツコースと生涯スポーツコースを核とした教育課程を編成している。競技スポーツコースにおいては、ジュニアからシニアまでの競技者（障がい者を有する競技者を含む）の競技力の向上に貢献できる競技スポーツの推進者の育成を目指し、生涯スポーツコースにおいては、子どもから高齢者までの健常者、障がい者、有病者の QOL (Quality of Life、生活の質) や健康体力の向上に貢献できる生涯スポーツの推進者の育成を目指している。いずれのコースにおいても、授業や課外のスポーツ活動の成果を活かして、「スポーツ界の好循環システム」に貢献する人材の育成を目指すことになる。

このような教育研究上の目的を実現するために、教育課程の編成にあたっては、段階的な学修を可能とする授業科目区分を設定するとともに、ある程度の柔軟な単位履修を可能にし、学生各自の興味・関心、生き方、将来設計を考慮した履修指導に基づく受講科目の選択が行われることで、各自の個性を重視した学修を実現することを目指している。このような学生各自の将来設計（生き方）を重視した学修を実現するために、卒業要件単位 124 単位のうち 28 単位については各授業科目区分から学生が自身の進路に合わせて選択履修することとし、学生たちが将来の社会的・職業的な自立を踏まえて計画的・体系的な授業科目の選択を行うことができるように、少人数の演習科目を活用して十分な履修指導を行うことができるように配慮する計画である。また、スポーツ実践の場やスポーツの指導、研究、マネジメント、サポートなどの場では、学問知（科学知）だけでは、あるいは経験知・実践知だけでは解決できない問題も多いことから、理論と実践の乖離を少しでも解消することができるように、両者を兼ね備えた人材の配置、あるいは両者を活かした組織の運営などにより、学問知と実践知・経験知との融合を目指している。

以上のように、新設を予定するスポーツ科学部は、スポーツ科学の知と技の修得とスポーツ競技力の向上・実技能力の向上を基盤とし、トップスポーツ（競技者のスポーツ）と地域スポーツ（みんなのスポーツ）との「好循環システム」を推進していくことのできる人材の育成を教育の主軸とするものである。

平成 23（2011）年 6 月 23 日に「スポーツ基本法」（平成 23 年法律第 78 号）が制定され、平成 24（2012）年 3 月には同法第 9 条に基づき「スポーツ基本計画」（文部科学大臣）が策定された。これによりわが国は、「スポーツ立国」を掲げ、「スポーツを通じてすべての人々が幸福で豊かな生活を営むことができる社会」の実現を目指す新たな時代に突入した。「スポーツ基本計画」では、この実現に向けて 7 つの政策課題を設け、それぞれについて政策目標を設定している。このうち、第 7 課題の「スポーツ界における好循環の創出」では、政策目標として「トップスポーツと地域スポーツとの連携・協働の推進」が掲げられており、優れたスポーツ選手の育成（競技水準の向上）とスポーツ選手による地域スポーツの推進の寄与をとおして、「育成されたアスリートが地域の指導者となる好循環のシステムの確立」を目指している。こうしたわが国の指針に対する取組みは、県や市町村単位でさらに具体化されて進められている。本学の所在地である山梨県においても「山梨県スポーツ振興実施計画」（平成 21（2009）年 3 月策定）に基づき、平成 26（2014）年 2 月に「やまなしスポーツ推進プログラムー健康で豊かな生活を営むことができる「やまなしスポーツ」の創出ー」を策定し、「スポーツ界における好循環の創出」を 3 つの基本方策の一つとして位置づけている。

前述の「スポーツ基本計画」では、このような「好循環システム」の確立に対する大学等の教育研究機関の役割として研究成果や人材の提供を挙げているが、これからのわが国のスポーツ系の学部学科においては、「好循環システム」を積極的に推進していくことのできる人材の育成がより強く求められていると言ってよいであろう。これは、スポーツ系の学部学科における、いわば「デュアル教育（デュアルシステム）」であり、スポーツ界で言われるいわゆる「セカンドキャリア教育」を越えたものである。このような施策は、まさに本学が新設を目指しているスポーツ科学部の教育研究の方向である。

（2）社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

本学では、新設学部の教育研究上の目的が、社会的、地域的な人材需要の動向に合致していることを検証するために、「山梨学院大学『スポーツ科学部』（仮称）設置に関するニーズ調査」において企業向けのニーズ調査を実施した。この調査も、株式会社進研アドとの間に業務委託契約を締結して調査の実施を依頼している。調査は、新設学部の教育研究上の目的を踏まえて、郵送によって、企業の採用担当者に採用意向や新設学部が予定する教育の魅力度を質問した。調査対象としたのは、本学の既設学部の卒業生が数多く就職している山梨県を中心とした関東圏に所在する企業・団体のうち、①毎年、本学主催の就職セミナーなどに参加していただいている交流の深い企業・団体（110 件）、②過去 3 年以内に、卒業生を採用していただいている企業・団体（1,425 件）、③過去に求人票や外部の情報交換会などで人事担当者との交流がある企業・団体（905 件）といった本学とすでに交流のある企業・団体に加えて、④スポーツ関連会社（メーカー、フィットネス、量販店など）で、大学卒業生を採用している企業・団体（60 件）である。これら①～④の計 2,500 件の企業・団体にアンケート調査への協力を依頼したところ、結果として、600 件の有効回答が得られた。

この調査において、新設学部の教育の魅力度を尋ねたところ、質問項目として掲げた 5 つの項目のいずれについても 75%を超える高い魅力度が示されている（「とても魅力を感じる」と回答した者と「ある程度魅力を感じる」と回答した者の合計数で魅力度をはかっている）。具体的には、（A）競技スポーツの実績がある山梨学院大学において、競技スポーツと生涯スポーツを核にしてスポーツを専門的に学ぶことができる点については、「とても魅力を感じる」との回答が 23.7%、「ある程度魅力を感じる」との回答が 55.5%で、両者を合わせると 79.2%が積極的な回答を示している。（B）【競技スポーツコース】では、ジュニアからシニアまでの競技者の競技力の向上に貢献できる人材の育成を

目指している点については、「とても魅力を感じる」との回答が 22.2%、「ある程度魅力を感じる」との回答が 52.8%で、両者を合わせると 75.0%が積極的な回答を示した。(C)【生涯スポーツコース】では、子どもから高齢者までの健常者、障がい者、有病者の QOL (Quality of Life、生活の質) や健康体力の向上に貢献できる人材の育成を目指している点については、「とても魅力を感じる」との回答が 36.8%、「ある程度魅力を感じる」との回答が 48.3%で、両者を合わせると 85.2%が積極的な回答を示した。(D) 各種競技スポーツにおいて指導経験豊富な教員・コーチ、スポーツを基礎的に実践的に研究している教員のもとで、実践と理論の両面からスポーツ科学に取り組むことができる点については、「とても魅力を感じる」との回答が 27.0%、「ある程度魅力を感じる」との回答が 48.5%で、両者を合わせると 75.5%が積極的な回答を示した。(E) 卒業後の進路として想定されるアスリート、競技スポーツや生涯スポーツの指導者・科学的サポートスタッフ・マネジメントスタッフ、体育教師、スポーツ行政関連の公務員、スポーツ関連企業やスポーツに関わる国際的な場で活躍する人などを目指して、各自の興味・関心や将来設計(生き方)と関連づけて学ぶことができる点については、「とても魅力を感じる」との回答が 28.2%、「ある程度魅力を感じる」との回答が 49.3%で、両者を合わせると 77.5%が積極的な回答を示した。以上のように、新設学部が養成しようとする人材像に関する質問(B)と(C)については、(B) 競技スポーツコースで 75.0%、(C) 生涯スポーツコースで 85.2%という極めて高い魅力度が示されていることから、新設学部が養成しようとする人材像が社会的な人材需要に合致しているものと考えられる。また、新設学部の教育の特色に関する質問(A)と(E)についても、それぞれ 79.2%と 77.5%という極めて高い魅力度が示されていることから、新設学部の教育研究上の目的は現在の社会的な人材需要の動向に合致した非常に魅力的なものとなっていると判断している。このことは、スポーツ科学部の社会的必要性に関する別の質問(Q9)において、山梨学院大学スポーツ科学部がこれからの社会にとって「必要だと思う」との回答が 90.7% (544 企業) であったことにも明確に表れていると考えている。

また、この調査における卒業生の採用意向について、新設学部が養成しようとする人材像に関しては、「採用したいと思う」と「採用したいと思わない」の二択で質問をしたところ、「採用したいと思う」との回答が 76.8% (回答数 461 企業) であり、極めて高い採用意向が示されている。また、上記の質問にあわせて毎年の採用想定人数について尋ねたところ、1 人との回答が 88 企業、2 人との回答が 34 企業、3 人との回答が 21 企業、4 人との回答が 2 企業、5～9 人との回答が 14 企業、10 人以上との回答が 11 企業という結果であった(人数未確定は、289 企業であった)。このことから、新設学部の卒業生について、少なく見積もっても 407 人程度の採用意向が示されている(人数未確定の企業を除き、回答のあった企業の毎年の採用想定人数の合計で計算した。なお、5～9 人との回答については毎年の採用想定人数を 5 人、10 人以上との回答については 10 人として計算している)と考えることができ、入学定員 170 人に対して 2.3 倍程度の需要を期待することができると考えている。(資料「山梨学院大学『スポーツ科学部』(仮称) 設置に関するニーズ調査結果報告書/企業」を参照)

以上のように、この調査結果は、新設を予定するスポーツ科学部の教育内容が卒業生を採用する企業にとって魅力的なものとなっていること、また、新設学部の卒業生を採用したいという意向を示した企業が入学定員 170 人の 2.3 倍以上存在したことを明らかにしており、新設学部の教育が社会的、地域的な人材需要の動向に合致していることを示す、客観的な根拠となるものであると判断している。

以上

山梨学院大学「スポーツ科学部」(仮称)
設置に関するニーズ調査
結果報告書

平成27年2月
株式会社 進研アド

高校生対象 調査概要

1. 調査目的

2016年4月開設予定の「山梨学院大学スポーツ科学部」(仮称)新設構想に関して、高校生のニーズを把握する。

2. 調査概要

		高校生対象調査
調査対象		高校2年生
調査エリア		山梨県、静岡県、長野県、群馬県、千葉県、神奈川県、栃木県、埼玉県、東京都、茨城県、北海道、青森県、岩手県、山形県、福島県、新潟県、富山県、福井県、岐阜県、京都府、大阪府、兵庫県、和歌山県、島根県、香川県、福岡県、熊本県、鹿児島県、沖縄県
調査方法		高校留め置き調査
調査対象数	依頼数 (依頼校)	40,127 (178校)
	回収数 (回収率)	23,451(133校) (58.4%)
調査時期		2014年11月26日(水) ～ 2014年12月22日(月)
調査実施機関		株式会社 進研アド

3. 調査項目

高校生対象調査
・属性 (性別／高校種別／高校所在地／所属コース)
・高校卒業後の希望進路
・興味のある学問系統
・スポーツ科学部の特色に対する魅力度
・スポーツ科学部への受験意向
・スポーツ科学部への入学意向

高校生対象 調査概要

4. 高校生対象調査 回収高校

高校生対象調査

<ul style="list-style-type: none"> ・とわの森三愛高等学校 ・白樺学園高等学校 ・青森県立八戸西高等学校 ・青森山田高等学校 ・岩手県立不来方高等学校 ・盛岡中央高等学校 ・山形県立米沢商業高等学校 ・福島県立郡山商業高等学校 ・福島県立修明高等学校 ・霞ヶ浦高等学校 ・常総学院高等学校 ・國學院大學栃木高等学校 ・白鷗大学足利高等学校 ・群馬県立高崎商業高等学校 ・群馬県立館林高等学校 ・群馬県立前橋東高等学校 ・高崎商科大学附属高等学校 ・前橋育英高等学校 ・高崎健康福祉大学高崎高等学校 ・埼玉県立深谷高等学校 ・埼玉栄高等学校 ・千葉県立八千代高等学校 ・千葉県立我孫子高等学校 ・習志野市立習志野高等学校 ・千葉英和高等学校 ・柏日体高等学校 ・木更津総合高等学校 ・かえつ有明高等学校 ・正則学園高等学校 ・保善高等学校 ・成立学園高等学校 ・藤村女子高等学校 ・神奈川県立厚木商業高等学校 ・三浦学苑高等学校 ・関根学園高等学校 ・富山県立石動高等学校 ・福井県立足羽高等学校 ・山梨県立韮崎高等学校 ・山梨県立韮崎工業高等学校 ・山梨県立甲府南高等学校 ・山梨県立甲府工業高等学校 ・山梨県立農林高等学校 ・山梨県立巨摩高等学校 ・山梨県立増徳商業高等学校 ・山梨県立峡南高等学校 	<ul style="list-style-type: none"> ・山梨県立身延高等学校 ・山梨県立日川高等学校 ・山梨県立山梨高等学校 ・山梨県立塩山高等学校 ・山梨県立都留高等学校 ・山梨県立桂高等学校 ・山梨県立吉田高等学校 ・山梨県立甲府東高等学校 ・山梨県立甲府城西高等学校 ・甲府市立甲府商業高等学校 ・山梨県立甲府昭和高等学校 ・山梨県立白根高等学校 ・山梨県立北杜高等学校 ・山梨県立富士北稜高等学校 ・甲斐清和高等学校 ・山梨学院大学附属高等学校 ・日本大学明誠高等学校 ・富士学苑高等学校 ・日本航空高等学校 ・長野県長野高等学校 ・長野県長野東高等学校 ・長野県篠ノ井高等学校 ・長野県上田東高等学校 ・長野県丸子修学館高等学校 ・長野県小諸高等学校 ・長野県野沢南高等学校 ・長野県小海高等学校 ・長野県諏訪二葉高等学校 ・長野県岡谷東高等学校 ・長野県岡谷工業高等学校 ・長野県上伊那農業高等学校 ・長野県伊那弥生ヶ丘高等学校 ・長野県塩尻志学館高等学校 ・長野県松本工業高等学校 ・長野県松本県ヶ丘高等学校 ・長野県豊科高等学校 ・長野県大町高等学校 ・長野県下諏訪向陽高等学校 ・長野県中野西高等学校 ・長野県飯山高等学校 ・長野市立長野高等学校 ・松本第一高等学校 ・創造学園高等学校 ・上田西高等学校 ・東京都市大学塩尻高等学校 	<ul style="list-style-type: none"> ・東海大学付属第三高等学校 ・岐阜県立岐阜総合学園高等学校 ・静岡県立吉原高等学校 ・静岡県立富士宮東高等学校 ・静岡県立富士宮北高等学校 ・静岡県立静岡城北高等学校 ・静岡県立静岡商業高等学校 ・静岡県立島田高等学校 ・静岡県立磐田北高等学校 ・静岡県立浜松湖東高等学校 ・静岡県立浜松商業高等学校 ・静岡県立浜名高等学校 ・静岡県立静岡西高等学校 ・静岡県立浜北西高等学校 ・静岡県立富士宮西高等学校 ・静岡市立清水桜が丘高等学校 ・沼津中央高等学校 ・飛龍高等学校 ・星陵高等学校 ・静岡県富士見高等学校 ・東海大学付属翔洋高等学校 ・城南静岡高等学校 ・磐田東高等学校 ・浜松学院高等学校 ・浜松日体高等学校 ・京都外大西高等学校 ・近畿大学附属高等学校 ・兵庫県立西脇工業高等学校 ・兵庫県立飾磨工業高等学校 ・和歌山県立和歌山北高等学校西校舎 ・和歌山県立箕島高等学校 ・和歌山県立日高高等学校 ・島根県立横田高等学校 ・島根県立出雲工業高等学校 ・香川県立香川中央高等学校 ・福岡県立玄界高等学校 ・東筑紫学園高等学校 ・筑陽学園高等学校 ・大牟田高等学校 ・熊本県立小国高等学校 ・鹿児島県立加治木工業高等学校 ・鹿児島県立明桜館高等学校 ・沖縄県立中部商業高等学校
--	--	---

高校生対象 調査結果まとめ



高校生対象 調査結果まとめ

回答者の属性

- 本調査の回答者は23,451人。
- 回答者の性別は「男性」が52.8%、「女性」が46.3%。
- 回答者の在籍高校種別は「公立」が64.9%、「私立」が35.1%。
- 回答者の在籍高校所在地は地元「山梨県」が23.9%で最も多く、「静岡県」が22.2%、「長野県」が17.9%。
- 回答者の所属コースは「文系クラス(文系コース)」が33.7%、「その他」が25.3%、「理系クラス(理系コース)」が20.8%。

高校卒業後の希望進路

- 回答者に高校卒業後の希望進路を尋ねたところ、「私立大学に進学」は38.8%、「専門学校・専修学校に進学」は28.1%、「国公立大学に進学」は27.5%。

興味のある学問系統

- 回答者に興味のある学問系統を尋ねたところ、「体育学・スポーツ科学、健康科学」が23.1%で最も高く、「教員養成・教育学」が16.7%、「経済学・経営学・商学」が14.3%で上位。

高校生対象 調査結果まとめ

スポーツ科学部の特色に対する魅力度

- スポーツ科学部の特色に対する魅力度(「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値)は、全ての特色で6割を超える。
- 最も魅力度が高いのは「各種のスポーツ施設や、スポーツを心技体の面から学ぶ実験・実習施設が整備されている。」で74.5%。次いで「各種競技スポーツにおいて指導経験豊富な教員・コーチや、スポーツを基礎的に実践的に研究している教員のもとで、実践と理論の両面からスポーツ科学に取り組むことができる。」(70.7%)、「卒業後の進路として想定されるアスリート、競技スポーツや生涯スポーツの指導者・科学的サポートスタッフ・マネジメントスタッフ、体育教師、スポーツ行政関連の公務員、スポーツ関連企業やスポーツに関わる国際的な場で活躍する人などを目指して、各自の興味・関心や将来設計(生き方)と関連づけて学ぶことができる。」(70.5%)と続く。

高校生対象 調査結果まとめ

スポーツ科学部への受験意向・入学意向

- スポーツ科学部を「受験したいと思う」と答えた人は、12.5% (2,942人)である。
- スポーツ科学部を「受験したいと思う」と答えた2,942人のうち、「入学したいと思う」と答えた人は91.4% (2,689人)であり、予定されている入学定員170人の15倍以上となっている。尚、この「受験したいと思う」かつ「入学したいと思う」と回答した人は全体の11.5% を占める。

受験意向別入学意向 属性別傾向

◇性別

- スポーツ科学部を「受験したいと思う」かつ「入学したいと思う」と答えた人（以降、下線部を本頁内では「入学意向者」と表す）は「女性」(7.0%)より「男性」(15.4%)の方が8ポイント高い。

◇高校所在地別

- 地元である「山梨県」の高校在籍者のうちスポーツ科学部への入学意向者は10.9% (614人)で、予定されている入学定員170人の3倍以上の入学意向数がみられた。

◇希望する進路別

- 現時点で「私立大学に進学」を考えている人のうち、スポーツ科学部への入学意向者は16.7% (1,521人)と、私立大学進学希望者に限定しても予定されている入学定員数を大きく上回る入学意向数がみられた。

◇興味のある学問系統別

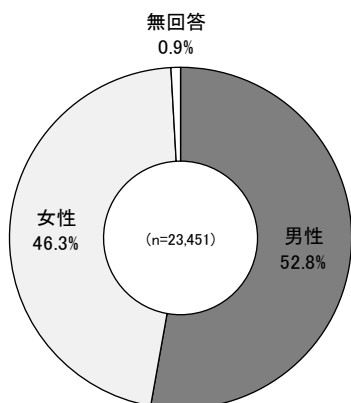
- 「体育学・スポーツ科学、健康科学」に興味を持っている人のうち、スポーツ科学部への入学意向者は34.3% (1,863人)と、高い割合で入学意向がみられた。

高校生対象 調査結果

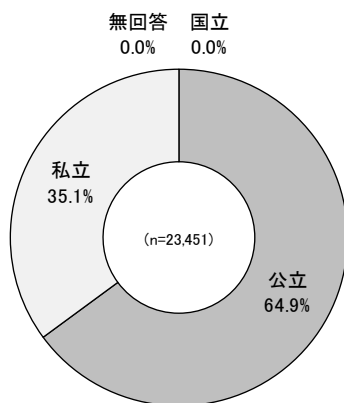


属性

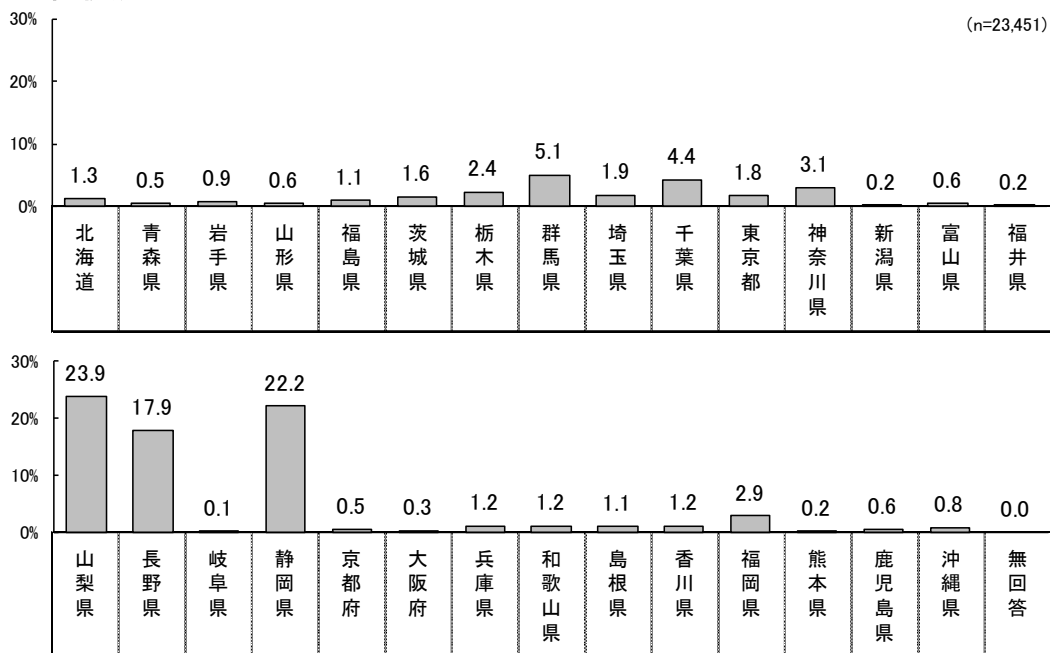
■性別



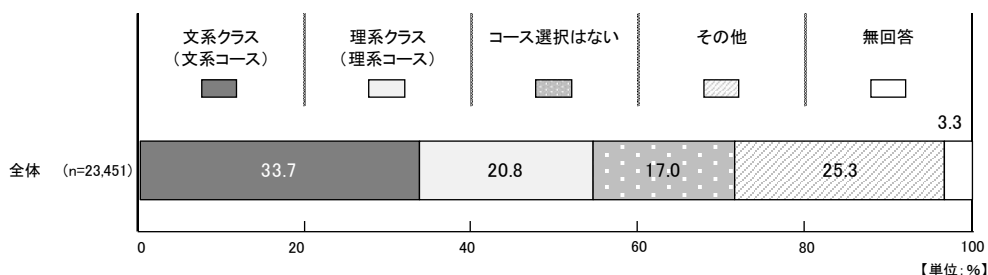
■高校種別



■高校所在地



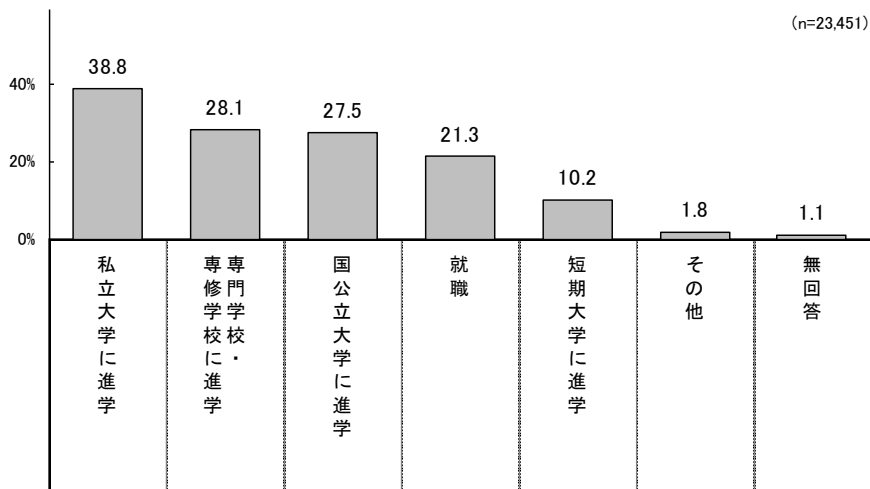
■所属コース



高校卒業後の希望進路／興味のある学問系統

■高校卒業後の希望進路

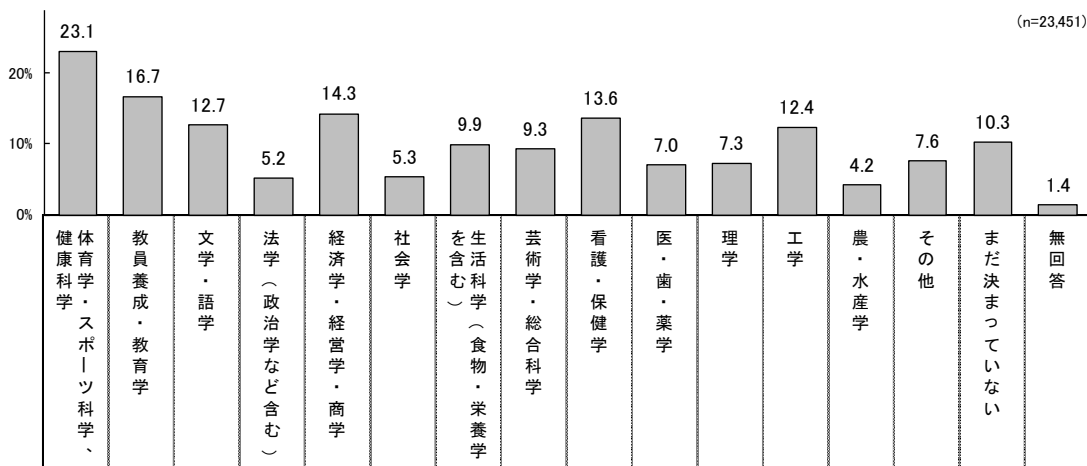
Q1.あなたは、高校卒業後の進路について、現時点ではどのように考えていますか。
以下の項目から、あてはまる番号すべてに○をつけてください。(いくつでも)



※降順に並び替え

■興味のある学問系統

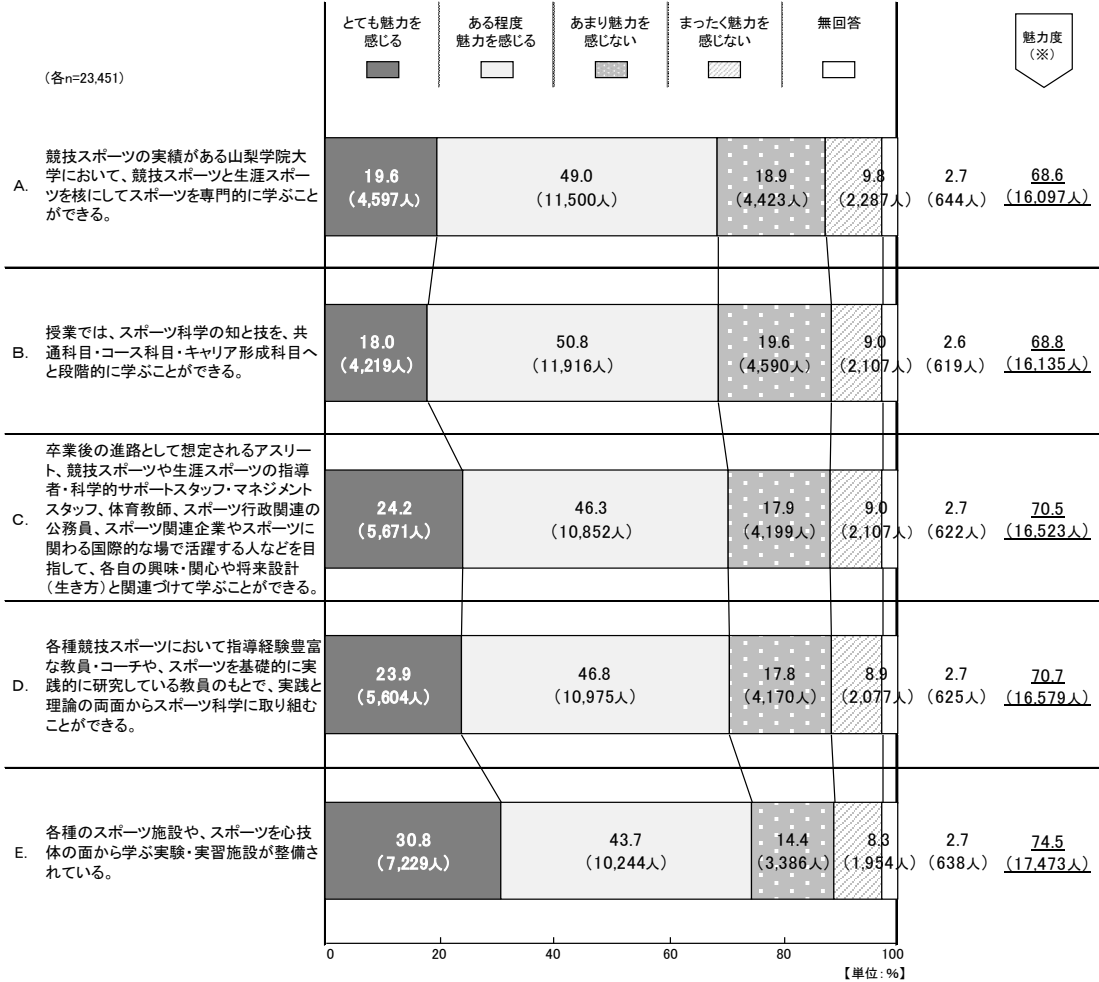
Q2.あなたは、どのような学問に興味がありますか。
以下の項目から、興味のある学問系統の番号すべてに○をつけてください。(いくつでも)
(現時点で進学を希望されていない方も、進学する場合を想像してお答えください。)



スポーツ科学部の特色に対する魅力度

■スポーツ科学部の特色に対する魅力度

Q3.山梨学院大学「スポーツ科学部」(仮称、設置構想中)には、以下のような特色があります。
それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

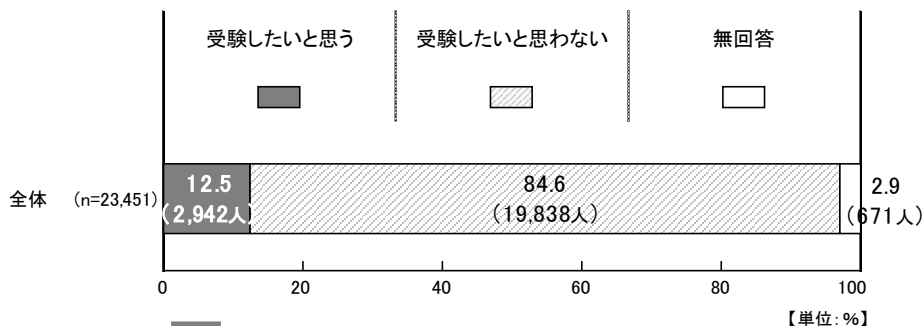


※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

スポーツ科学部への受験意向／入学意向

■スポーツ科学部への受験意向

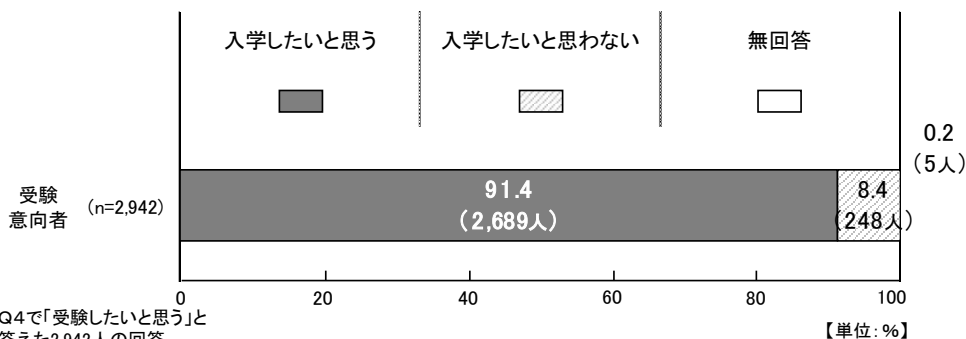
Q4.あなたは、山梨学院大学「スポーツ科学部」(仮称、設置構想中)を受験してみたいと思いますか。
あなたの気持ちに一番近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)



「受験したいと思う」と答えた2,942人のみ抽出

■スポーツ科学部への入学意向

Q5.あなたは、山梨学院大学「スポーツ科学部」(仮称、設置構想中)に合格したら、入学したいと思いますか。
あなたの気持ちに一番近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

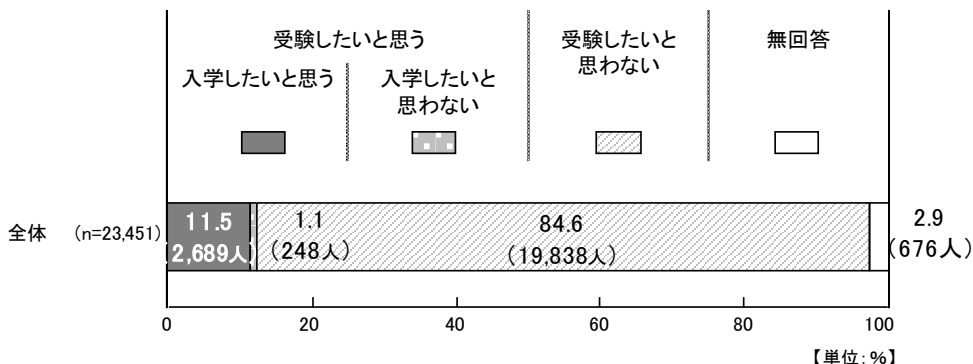


※ Q4で「受験したいと思う」と答えた2,942人の回答



「受験意向(Q4)」と「入学意向(Q5)」を
かけあわせて集計(母数は全回答者)

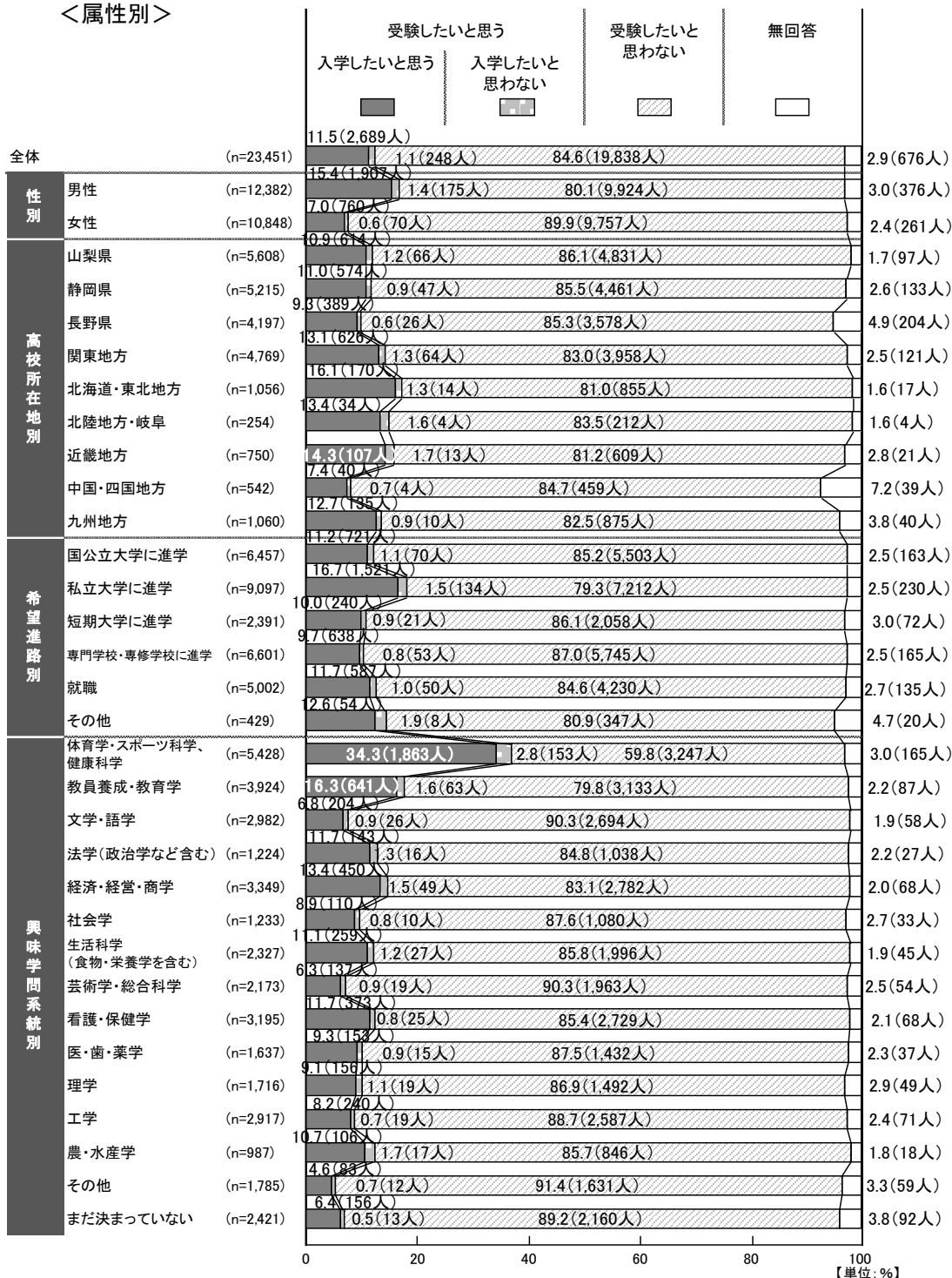
■スポーツ科学部への受験意向別入学意向



スポーツ科学部への受験意向／入学意向＜属性別＞

■スポーツ科学部への受験意向別入学意向

＜属性別＞



卷末資料 調查票



高校生対象 調査票

山梨学院大学「スポーツ科学部」(仮称、設置構想中)に関するアンケート

山梨学院大学では2016年(平成28年)4月より、「スポーツ科学部」(仮称)を新設することを構想しています。このアンケートは、高校生のみ皆さんの進路選択に対する考え方や、大学で学びたいことなどの意見をお伺いし、山梨学院大学の教育をより充実したものにするための参考資料とさせていただきます。このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することは一切ありません。つきましては、ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。

※このアンケートに記載されている内容はあくまで予定であり、内容が変更になる可能性もあります。

記入要領

1. 回答は、**あてはまる番号**に「○」印をつけてください。
2. この用紙は、電算処理しますので汚さないようにしてください。
3. 記入にあたっては、必ず**鉛筆**又は**シャープペンシル**で濃く書いてください。
4. 下記の【良い記入例】にしたがって記入してください。
特に、「○」印は、**番号丸枠からはみ出さないように**つけてください。

ID 01

この欄には記入しないでください

良い
記入例

① 体育学
 ② 教員養成

悪い
記入例

① 体育学
 ② 教員養成

① 体育学
 ② 教員養成

① 体育学
 ② 教員養成

① 体育学
 ② 教員養成

◆最初にあなた自身についてお聞きします。

性別 (1つに○)	<input type="radio"/> ① 男性 <input type="radio"/> ② 女性	学年 (1つに○)	<input type="radio"/> ① 1年生 <input type="radio"/> ② 2年生 <input type="radio"/> ③ 3年生
在籍している 高校名	高校所在地 [] 都・道・府・県 <input type="radio"/> ① 国立 <input type="radio"/> ② 公立 <input type="radio"/> ③ 私立 (←1つに○) [] 高等学校		
所属クラス (1つに○)	<input type="radio"/> ① 文系クラス (文系コース) <input type="radio"/> ③ コース選択はない <input type="radio"/> ② 理系クラス (理系コース) <input type="radio"/> ④ その他 (具体的に:)		

◆高校卒業後の進路や、興味のある学びについてお聞きします。

Q1

あなたは、高校卒業後の進路について、現時点ではどのように考えていますか。
以下の項目から、あてはまる番号すべてに○をつけてください。(いくつでも)

- ① 国立大学に進学 ③ 短期大学に進学 ⑤ 就職
 ② 私立大学に進学 ④ 専門学校・専修学校に進学 ⑥ その他()

Q2

あなたは、どのような学問に興味がありますか。
以下の項目から、興味のある学問系統の番号すべてに○をつけてください。(いくつでも)
(現時点で進学を希望されていない方も、進学する場合を想像してお答えください。)

- ① 体育学・スポーツ科学、健康科学 ⑦ 生活科学(食物・栄養学を含む) ⑬ 農・水産学
 ② 教員養成・教育学 ⑧ 芸術学・総合科学 ⑭ その他()
 ③ 文学・語学 ⑨ 看護・保健学 ⑮ まだ決まっていない
 ④ 法学(政治学など含む) ⑩ 医・歯・薬学
 ⑤ 経済学・経営学・商学 ⑪ 理学
 ⑥ 社会学 ⑫ 工学

高校生対象 調査票

◆山梨学院大学「スポーツ科学部」(仮称、設置構想中)についてお聞きします。

山梨学院大学では、現在高校2年生のみなさんが大学生となる2016年(平成28年)4月に、新しく「スポーツ科学部」(仮称)を設置することを構想しています。

※ ここからは、アンケートに同封している資料を見てからお答えください ※

Q3 山梨学院大学「スポーツ科学部」(仮称、設置構想中)には、以下のような特色があります。それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		とても魅力を感じる	ある程度魅力を感じる	あまり魅力を感じない	まったく魅力を感じない
	例 ○○である	→ ①	◎	③	④
A	競技スポーツの実績がある山梨学院大学において、競技スポーツと生涯スポーツを核にしてスポーツを専門的に学ぶことができる。	→ ①	②	③	④
B	授業では、スポーツ科学の知と技を、共通科目・コース科目・キャリア形成科目へと段階的に学ぶことができる。	→ ①	②	③	④
C	卒業後の進路として想定されるアスリート、競技スポーツや生涯スポーツの指導者・科学的サポートスタッフ・マネジメントスタッフ、体育教師、スポーツ行政関連の公務員、スポーツ関連企業やスポーツに関わる国際的な場で活躍する人などを目指して、各自の興味・関心や将来設計(生き方)と関連づけて学ぶことができる。	→ ①	②	③	④
D	各種競技スポーツにおいて指導経験豊富な教員・コーチや、スポーツを基礎的に実践的に研究している教員のもとで、実践と理論の両面からスポーツ科学に取り組むことができる。	→ ①	②	③	④
E	各種のスポーツ施設や、スポーツを心技体の面から学ぶ実験・実習施設が整備されている。	→ ①	②	③	④

Q4 あなたは、山梨学院大学「スポーツ科学部」(仮称、設置構想中)を受験してみたいと思いますか。あなたの気持ちに一番近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

- ① 受験したいと思う ② 受験したいと思わない

Q5 あなたは、山梨学院大学「スポーツ科学部」(仮称、設置構想中)に合格したら、入学したいと思いますか。あなたの気持ちに一番近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

- ① 入学したいと思う ② 入学したいと思わない

Q6 山梨学院大学「スポーツ科学部」(仮称、設置構想中)について、もっと知りたいことやご意見・ご要望など、どのようなことでもかまいませんので、ご自由にお書きください。

*** 質問は以上です。ご協力ありがとうございました。***

学びの環境

スポーツ科学部生にとって重要なスポーツ施設は、屋内施設としては体育館、武道館(レスリング場、柔道場、剣道場)、水泳場、トレーニング場、リハビリテーション室などがあり、屋外施設としては陸上競技場、野球場、ホッケー場、サッカー場、ラグビー場、ソフトボール場、テニスコート、ゴルフ練習場、多目的グラウンドなどがあります。これらの施設は学内、学外周辺にあり、便利よく活用できます。また栄養面については、学内の食堂や各クラブの寮での食事で、競技者として質・量ともに十分に確保できます。

一方、スポーツを心技体の面から学修する実験・実習棟は、スポーツ科学部が開設される2016年までに建ちます。この棟には、生理系・バイオメカニクス系・心理系の実験室、低酸素トレーニング室の他に、マネジメント系、コーチング系、障がいスポーツ系の作業室や情報分析室があります。

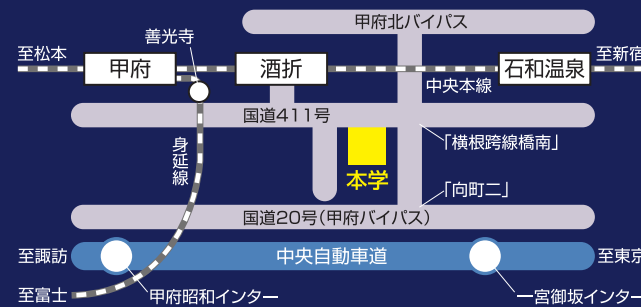


2016年、スポーツを心技体の面から学修する、新しい実験・実習棟が完成(予定)!



交通アクセス

- 電車利用の場合
JR中央線酒折駅下車徒歩2分。
JR身延線善光寺駅下車徒歩12分。
- バス利用の場合
新宿駅西口高速バスターミナルから石和経由甲府駅行バスに乗り、山梨学院大学前で下車。
- 自動車利用の場合
東京方面から、中央自動車道、一宮御坂インターを出て、国道20号線(甲府バイパス)を甲府市街方面に向い、「向町二」三叉路を右折し「横根跨線橋南」交差点を左折する。
長野・名古屋方面からは中央自動車道、甲府昭和インターを出て、国道20号線(甲府バイパス)を大月方面に向い「向町二」三叉路を左折し「横根跨線橋南」交差点を左折する。



学費について

初年度学費等納付金(予定)

		入学時	後期(9月)
学費	入学金	200,000円	—
	授業料	397,500円	397,500円
教育充実費		155,000円	155,000円
実習費		45,000円	45,000円
小計		797,500円	597,500円
合計			1,395,000円

富士山《世界文化遺産》のある甲州の地で
スポーツの“知と技”を学びませんか



スポーツ科学部 スポーツ科学科〈仮称〉

入学定員160人予定

山梨学院大学

(入試センター) ☎400-8575 山梨県甲府市酒折 2-4-5 TEL.055-224-1234 FAX.055-224-1380
<http://www.ygu.ac.jp/>

山梨学院大学

2016年4月開設予定(設置構想中)
本学部・学科の概要等は構想中のものであり、今後、変更することがあります。



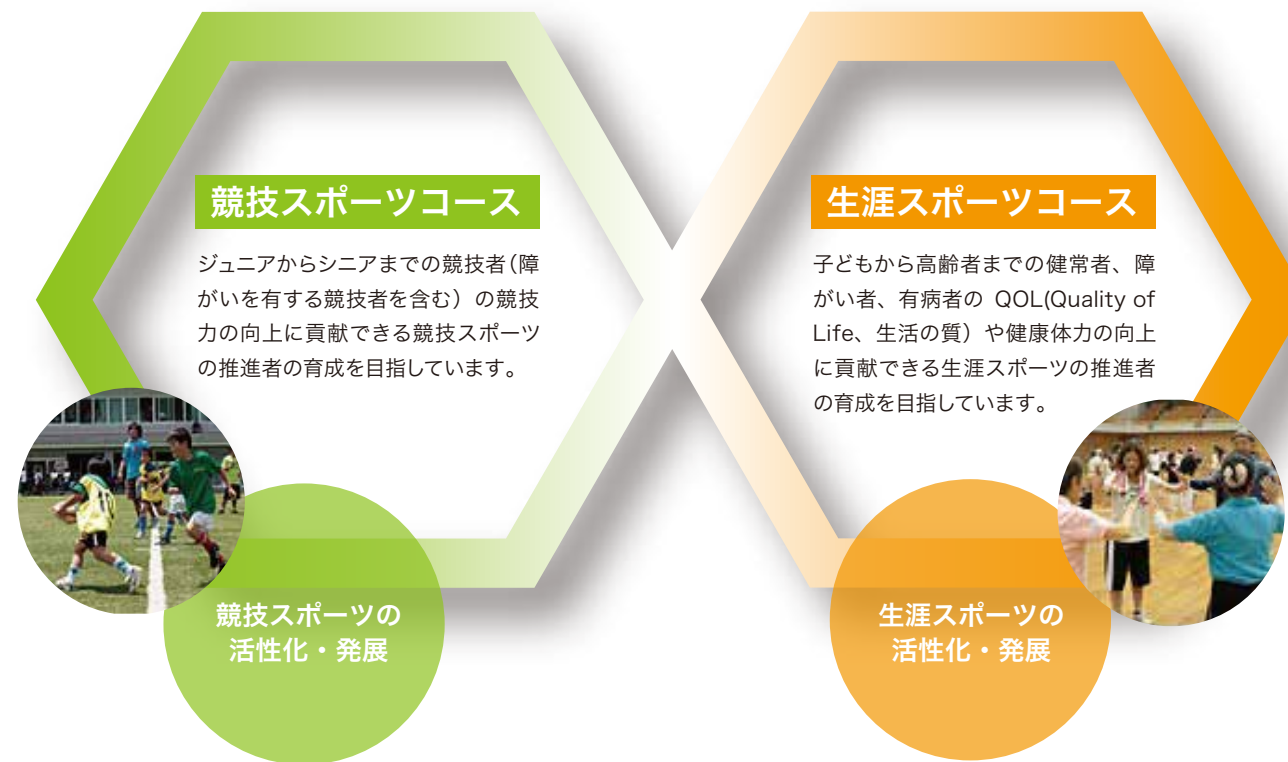
競技スポーツで実績のある山梨学院大学で 世界共通の文化であるスポーツの価値や意義、役割の重要性を学びませんか。

私たちの暮らしの中にスポーツは広く浸透するようになりました。スポーツを行う目的が多様化するとともに、地域におけるスポーツクラブの成長や、競技力の向上、プロスポーツの発展、スポーツによる国際交流や貢献の活発化などスポーツを巡る環境は大きく変化しています。こうした状況から、わが国においては2011年に「スポーツ基本法」が制定され、翌年「スポーツ基本計画」が策定されました。それにより「スポーツを通じてすべての人々が幸福で豊かな生活を営むことができる社会」の実現を目指す新たな時代に入りました。「スポーツ基本計画」では、「スポーツ界における好循環の創出」を課題の一つに掲げ、「優れたアスリート（競技者）の育成と、育成された競技者が地域の指導者となる好循環のシステムの確立」を目指しています。このことを踏まえ、山梨学院大学の「スポーツ科学部」では、トップスポーツ（競技者のスポーツ）と地域スポーツ（みんなのスポーツ）との「好循環システム」を積極的に推進していくことのできる人材を、競技スポーツと生涯スポーツの2コースを核として育成します。

■競技スポーツでの実績

山梨学院大学は1977年にスポーツセンター（その後、カレッジスポーツセンターに改称）を設立し、強化育成クラブ制度を発足しました。以来、国内の主要大会はもとよりオリンピックなどの国際大会で活躍する選手を数多く輩出し、「日本オリンピック委員会スポーツ賞、トップアスリートサポート賞 優秀団体賞（2004年）、文部科学省スポーツ功労団体表彰（2010年・2013年）に受賞しています。

■コース概念図



「スポーツ科学部」が養成する人材像

クラブ活動での競技力の向上、授業でのスポーツ科学の知と技の修得を踏まえ

1. 競技スポーツの場で活躍できる人
2. 生涯スポーツの場で活躍できる人

- 幅広い教養と豊かな人間性を身につけ、何ことに対しても意欲的に取り組める人
- 国内外の競技スポーツの場で、アスリートとして活躍できる人
- 地域における競技スポーツの場で、指導者、科学的サポートスタッフとして活躍できる人
- 地域における生涯スポーツの場で、指導者、科学的サポートスタッフとして活躍できる人
- 学校体育・スポーツの場で、指導者として活躍できる人
- スポーツ関連企業の中で、企業人として活躍できる人
- 国際的なスポーツの場で、指導者として、科学的サポートスタッフとして活躍できる人
- 国内外の大学院等へ進学し、高度の専門知識・技能を身につけたいと考えている人

教育の特色

基礎から実践までの幅広い学びの科目

スポーツを行うこと、見ること、支えること、教えることなど、スポーツの価値や意義、役割などの重要性を基礎から学びます。また、スポーツ技能の獲得を目指す実践的な授業など、精選した科目を幅広く学びます。そして幅広い専門知識を身につけた指導者やスポーツ推進に寄与する人材を養成します。



学びの内容をステップアップする

共通科目からコース科目、キャリア形成科目へと学びの内容をステップアップします。指導能力、研究能力、マネジメント能力、科学的サポート能力などの知識を深めるため段階的にキャリア形成科目に進み、それぞれの専門性をさらに高めています。

個性を重視した、双方向型の学びを実現

将来「なりたい自分」や「自分の夢」を実現できるよう、一人ひとりの個性を重視したカリキュラムを採用しています。双方向（対話）型の授業が展開できる演習科目、実験・実習科目を多く開講し、卒業要件124単位に占める必須科目と選択必須科目の単位数をやや少なくすることで、卒業後のライフプランや興味、関心に応じて学ぶことができるよう配慮しています。

少人数制による質の高い授業

学生生活を通して幅広い教養と豊かな人間性を身につけたいと願っている人には、少人数制が適しています。スポーツ科学部は入学定員（160人）が少ないため、少人数の受講生のなかで学ぶことができます。学生間ももとより教員との距離も近くなり、アットホームな雰囲気のなかで質の高い授業が受けられます。

各種競技の優れた教員・コーチやスポーツ科学の研究者による指導

わが国を代表する各種競技スポーツの優れた教員・コーチが指導に当たります。また、競技スポーツや生涯スポーツを基礎的に実践的に研究している教員もいます。このような、実践知・経験知を有する教員と学問知を有する教員の連携のもとで、実践と理論の両面からスポーツに取り組むことができます。

スポーツの心技体を学べる施設・設備

屋内・屋外のスポーツ施設が豊富に整備されています。また、スポーツを心技体の面から学ぶ実験・実習設備が整っています。クラブ活動や授業をとおして競技力をさらに高めたい、スポーツを科学的に学びたいと願っている人には最適な環境といえます。



「スポーツ科学部」における学びの内容

スポーツ科学部で学ぶ科目は、「総合基礎教育科目：一般教養を幅広く身につける科目」「外国語教育科目：英語を中心に学ぶ」「専門教育科目：スポーツ科学部で段階的に学ぶ」「教職科目：教員免許取得にかかわる科目」に大別されています。

■専門教育科目の学びのステップ

共通科目

スポーツ科学の基礎知識や各種のスポーツ技能を幅広く身に付けることを目的としています。人文社会系科目、自然系科目、実技科目などがあり、各種の資格取得にかかわる科目があります。

■主な履修科目

- スポーツ経営学
- スポーツ社会学
- スポーツ教育学
- スポーツ心理学
- スポーツバイオメカニクス
- スポーツ生理学
- スポーツ栄養学
- 運動処方論
- コーチング論
- 運動実技（21種目）など

コース科目

各自の興味・関心、卒業後の将来設計などに応じて、専門的なスポーツ科学の知識や技能を総合的に身に付けることを目的としています。2コースに分かれて学びます。

■主な履修科目

- | 競技スポーツコース | 生涯スポーツコース |
|-----------|----------------|
| ● マネジメント論 | ● 政策論 |
| ● 情報戦略論 | ● プロモーション論 |
| ● 技術論 | ● ビジネス論 |
| ● 体力論 | ● 子どもスポーツ論 |
| ● 心理論 | ● 高齢者スポーツ論 |
| ● 傷害論 | ● 障がい者スポーツ論 など |

キャリア形成科目

キャリア形成（社会的・職業的自立の促進）を図るために、より専門的なスポーツ科学の知識や技能を重点的に身に付けることを目的としています。コーチング、競技スポーツや生涯スポーツの科学的サポート、教職、国際的な活動、などにかかわる科目を、自由に選んで学びます。

■主な履修科目

- 種目別コーチングにかかわる科目（13科目）
- 競技スポーツの科学的サポートにかかわる科目（6科目）
- 生涯スポーツの科学的サポートにかかわる科目（6科目）
- 教職にかかわる科目（9科目）
- 国際的活動にかかわる科目（スポーツ英語）（11科目）

教職科目

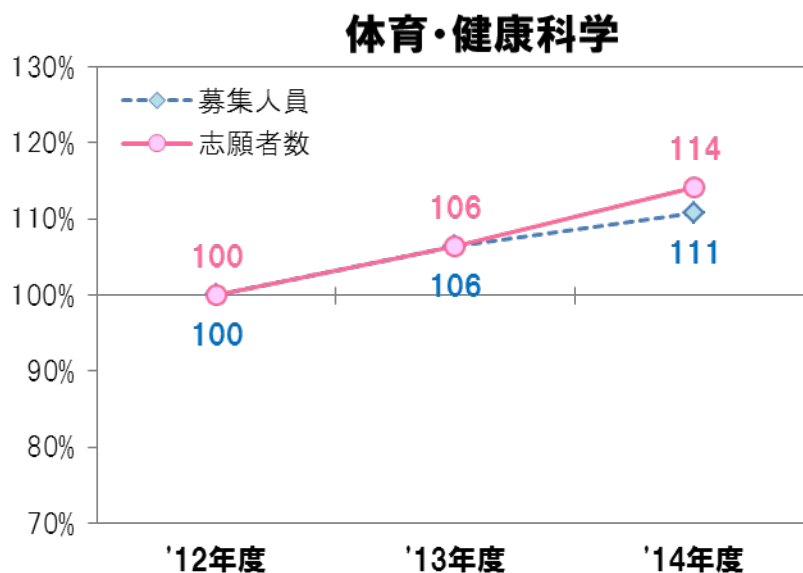
保健体育（中学校、高等学校）の教員免許取得にかかわる科目です。

【取得できる資格】 教員免許状 [保健体育・中学校及び高等学校一種免許状] / スポーツ指導基礎資格（(公財)日本体育協会）健康運動指導士、健康運動実践指導者（(公財)健康・体力づくり事業団）

卒業後の進路

プロスポーツ、スポーツ関連企業（スポーツ施設、製造、販売、報道、出版など）、教職、青年海外協力隊、公務員（自治体、消防、警察、自衛隊など）、一般企業、大学院等への進学、その他

全国私立大学【体育・健康科学科系統】志願状況3カ年推移



	'12年度	'13年度	'14年度	14-12差
募集人員	3,657	3,893	4,055	398
志願者数	37,245	39,617	42,517	5,272
実質倍率	3.9	4.1	4.2	0.3

*上記の「募集人員」、「志願者数」は、該当する学問系統に該当する大学の一般一期、センター一期における人数を集計した数値

各入試年度 ベネッセコーポレーション調べ

①「山梨県の高校に通っている」かつ「私立大学への進学を希望」の人のみの意向

	調査数	受験したいと思う		受験したいと思わない	無回答
		入学したいと思う	入学したいと思わない		
①山梨県 ×私大進学希望者	1,839	301	29	1,476	33 (人)
	100.0	16.4	1.6	80.3	1.8 (%)
(参考)全体に対する%	23,451	1.3	0.1	6.3	0.1 (%)

②「山梨県の高校に通っている」かつ「体育学・スポーツ科学、健康科学に興味がある」人のみの意向

	調査数	受験したいと思う		受験したいと思わない	無回答
		入学したいと思う	入学したいと思わない		
②山梨県 ×体育学・スポーツ科学、健康科学関心者	1,088	397	34	629	28 (人)
	100.0	36.5	3.1	57.8	2.6 (%)
(参考)全体に対する%	23,451	1.7	0.1	2.7	0.1 (%)

③「私立大学への進学を希望」かつ「体育学・スポーツ科学、健康科学に興味がある」人のみの意向

	調査数	受験したいと思う		受験したいと思わない	無回答
		入学したいと思う	入学したいと思わない		
③私大進学希望者 ×体育学・スポーツ科学、健康科学関心者	2,959	1,179	88	1,608	84 (人)
	100.0	39.8	3.0	54.3	2.8 (%)
(参考)全体に対する%	23,451	5.0	0.4	6.9	0.4 (%)

④「山梨県の高校に通っている」かつ「私立大学への進学を希望」かつ「体育学・スポーツ科学、健康科学に興味がある」人のみの意向

	調査数	受験したいと思う		受験したいと思わない	無回答
		入学したいと思う	入学したいと思わない		
④山梨県×私大進学希望者 ×体育学・スポーツ科学、健康科学関心者	490	216	17	248	9 (人)
	100.0	44.1	3.5	50.6	1.8 (%)
(参考)全体に対する%	23,451	0.9	0.1	1.1	0.0 (%)

山梨学院大学「スポーツ科学部」(仮称)
設置に関するニーズ調査
結果報告書

平成27年2月
株式会社 進研アド

企業対象 調査概要

1. 調査目的

2016年4月開設予定の「山梨学院大学スポーツ科学部」新設構想に関して、企業のニーズを把握する。

2. 調査概要

		企業対象調査
調査対象		企業の人事関連業務担当者
調査エリア		北海道、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県、長野県、静岡県、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県、熊本県
調査方法		郵送調査
調査対象数	依頼数	2,500社
	回収数 (回収率)	600社 (24.0%)
調査時期		2014年12月3日(水) ～ 2014年12月25日(木)
調査実施機関		株式会社 進研アド

3. 調査項目

企業対象調査
・属性 (人事採用への関与度／本社所在地／勤務先の主な業種)
・従業員数
・正規社員の平均採用人数
・本年度の採用予定数
・採用したい学問系統
・スポーツ科学部の特色に対する魅力度
・スポーツ科学部の社会的必要性
・スポーツ科学部卒業生に対する採用意向
・スポーツ科学部卒業生の毎年の採用想定人数

企業対象 調査結果まとめ



企業対象 調査結果まとめ

回答企業(回答者)の属性

- 本調査の回答企業は600企業。
- 回答者の人事採用への関与度を聞いたところ、「採用の決裁権はないが、選考にかかわっている」人が56.0%、「採用の決裁権があり、選考にかかわっている」人は34.7%と多く、採用や選考にかかわっている人は90.7%である。
- 回答企業の本社所在地は「東京都」が33.8%で最も多い。また、地元の「山梨県」は21.8%である。
- 回答企業の業種としては「卸売・小売業」が30.5%と最も多く、次いで「製造業」が17.8%と多い。
- 回答企業の従業員数規模は「100名～500名未満」が41.5%で最も多く、次いで「50名未満」が18.2%と多い。

採用状況

- 回答企業の正規社員の平均採用人数を自由記述で聴取したところ「1～5名未満」が28.2%で最も多く、次いで「10～20名未満」が18.8%と多い。
- 回答企業の過去3か年の平均的な採用人数を合計した採用総数は21,366名である。
- 回答企業の本年度の採用予定数は「昨年度並み」が52.3%で最も多く、「増やす」が31.0%と続く。
- 回答企業の採用したい学問系統は「学問系統にこだわらない」が全体の中で最も多く46.5%。次いで「経済学・経営学・商学」が31.3%、「体育学・スポーツ科学、健康科学」が28.2%と多い。

企業対象 調査結果まとめ

スポーツ科学部の特色に対する魅力度

- スポーツ科学部の特色に対する魅力度は、全ての特色で7割を超える。
- 最も魅力度が高いのは「【生涯スポーツコース】では、子どもから高齢者までの健常者、障がい者、有病者の QOL (Quality of Life、生活の質) や健康体力の向上に貢献できる人材の育成を目指している。」で85.2%、次いで「競技スポーツの実績がある山梨学院大学において、競技スポーツと生涯スポーツを核にしてスポーツを専門的に学ぶことができる。」(79.2%)。

スポーツ科学部の社会的必要性

- スポーツ科学部の社会的必要性について、「必要だと思う」と答えた企業は90.7% (544企業)と、ほとんどの企業でこれからの社会にとって必要な学部だと認識されている。

企業対象 調査結果まとめ

スポーツ科学部卒業生に対する採用意向／ 毎年の採用想定人数

- スポーツ科学部卒業生を「採用したいと思う」と答えた企業は76.8% (461企業)である。
- スポーツ科学部卒業生を「採用したいと思う」と答えた461企業に対し、スポーツ科学部卒業生を毎年何名程度採用すると想定しているか聞いたところ、毎年の採用想定人数は合計で407名である。

採用意向 属性別傾向

◇本社所在地別

- 地元「山梨県」の企業の採用意向は、72.5%。また、「神奈川県」の企業では88.0%、「東京都」の企業では81.3%と高い採用意向を示している。

◇業種別

- 「健康・サービス業」の企業の採用意向が95.2%と最も高く、「飲食店・宿泊業」(89.3%)、「卸売・小売業」(88.5%)の企業の採用意向も8割を超える。

◇採用したい学問系統別

- 採用したい学問系統で「体育学・スポーツ科学、健康科学」を選んだ企業の採用意向は95.9%と最も高い。また「教員養成・教育学」(86.5%)、「学問系統にこだわらない」(84.2%)を選んだ企業も8割以上の採用意向を示している。

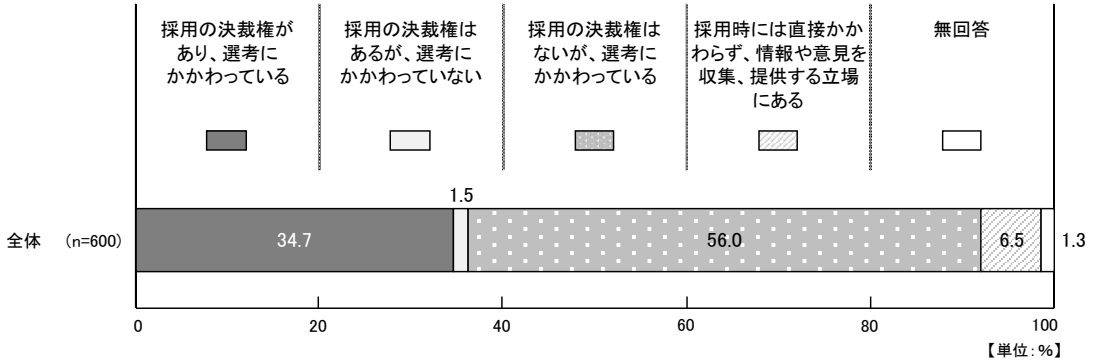
企業対象 調査結果



属性

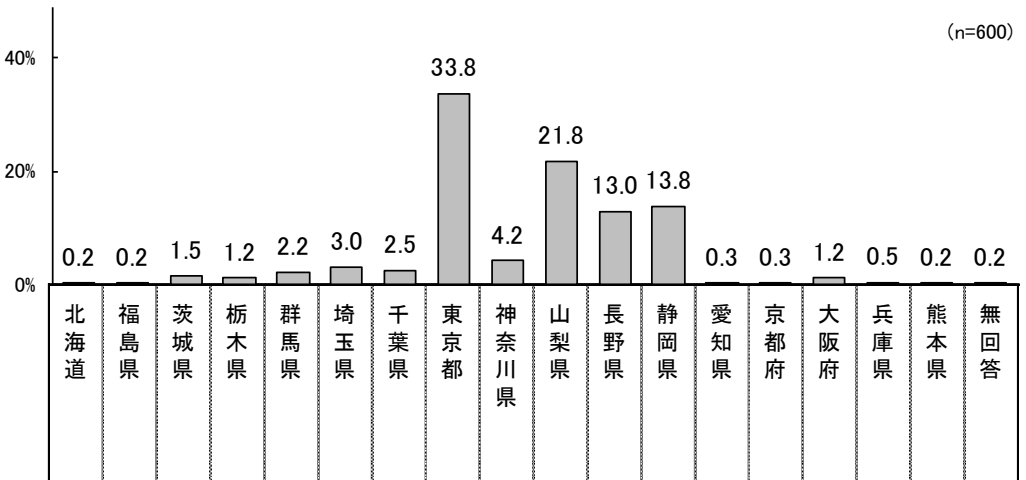
■人事採用への関与度

Q1. アンケートにお答えいただいている方の、人事採用への関与度をお教えてください。(あてはまる番号1つに○)



■本社所在地

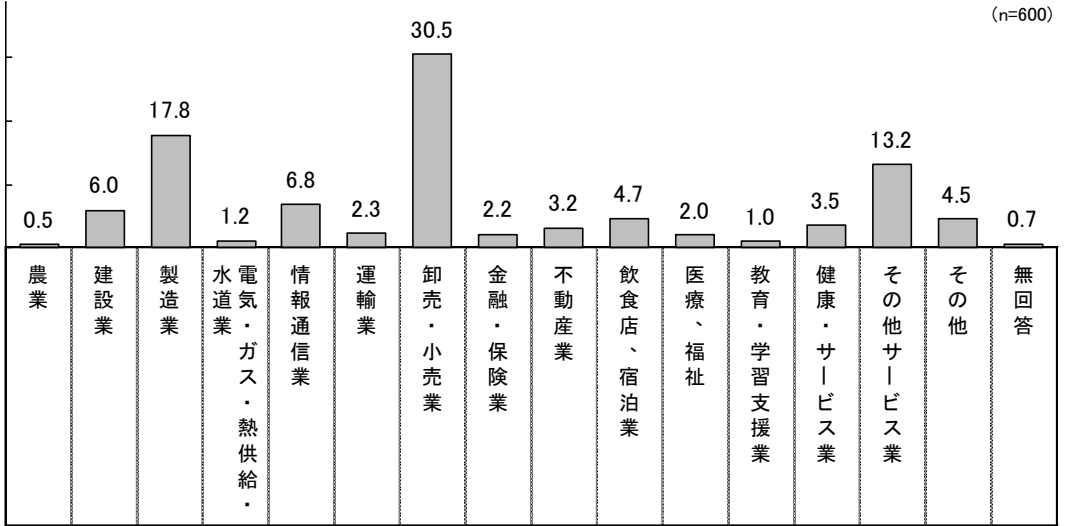
Q2. 貴社・貴団体の本社(本部)所在地について、都道府県名をお教えてください。



属性

■勤務先の主な業種

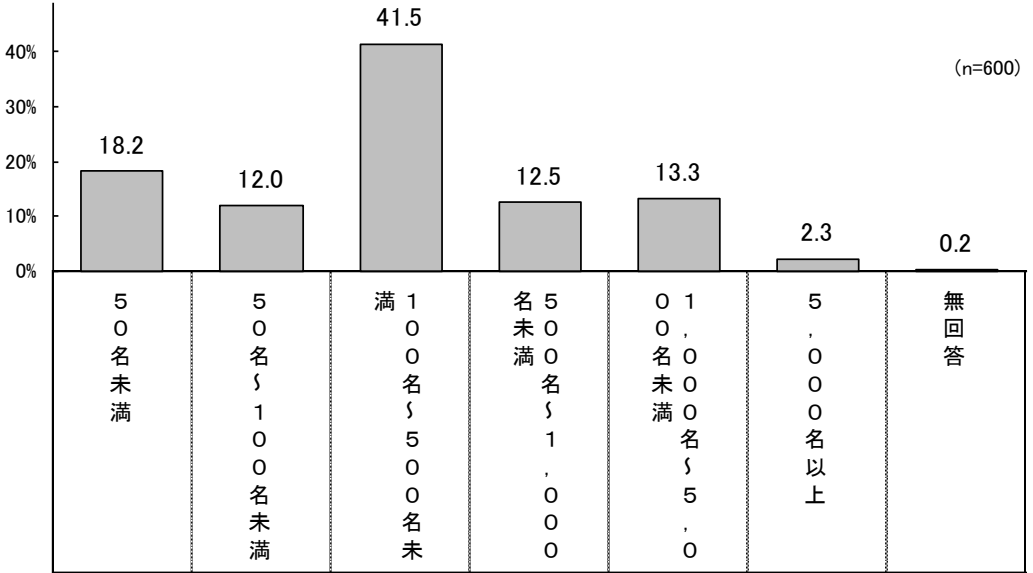
Q3. 貴社・貴団体の業種について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)



従業員数／正規社員の平均採用人数

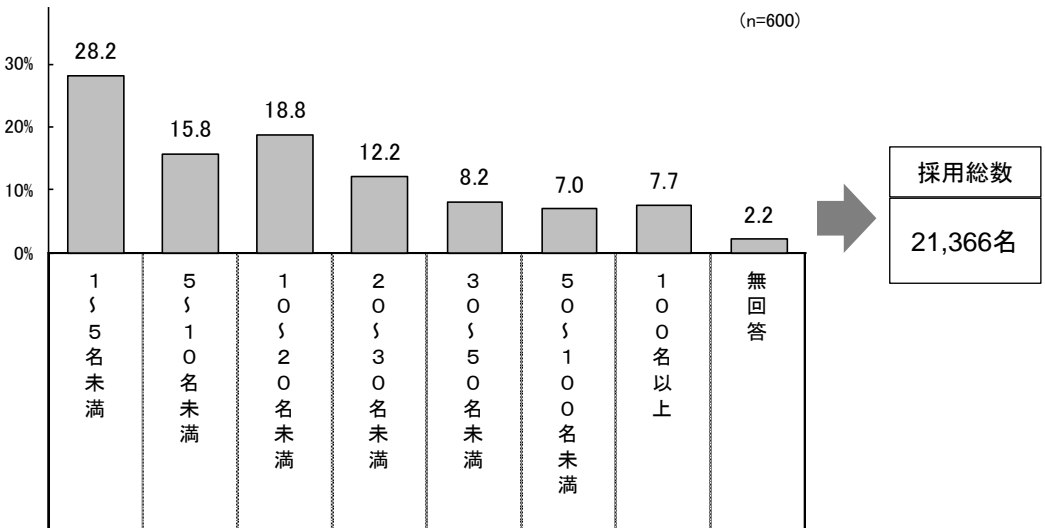
■従業員数

Q4. 貴社・貴団体の従業員数(正規社員)について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)



■正規社員の平均採用人数

Q5. 貴社・貴団体の過去3か年の平均的な正規社員の採用数について、お教えてください。

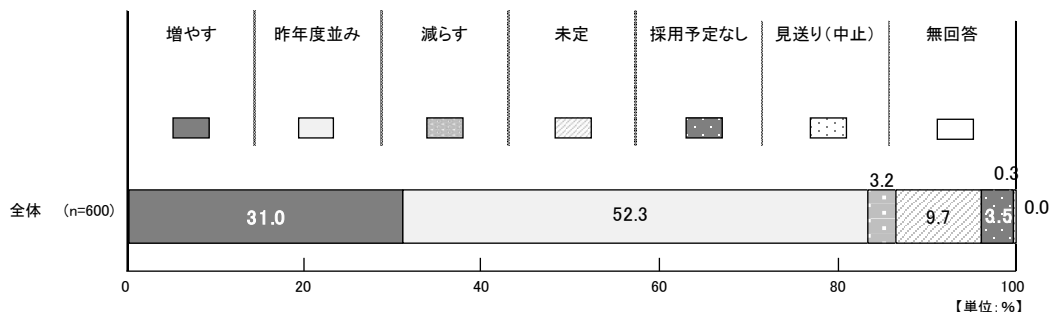


※自由記述で聴取した人数をカテゴリー分けしてグラフ化。

本年度の採用予定数／採用したい学問系統

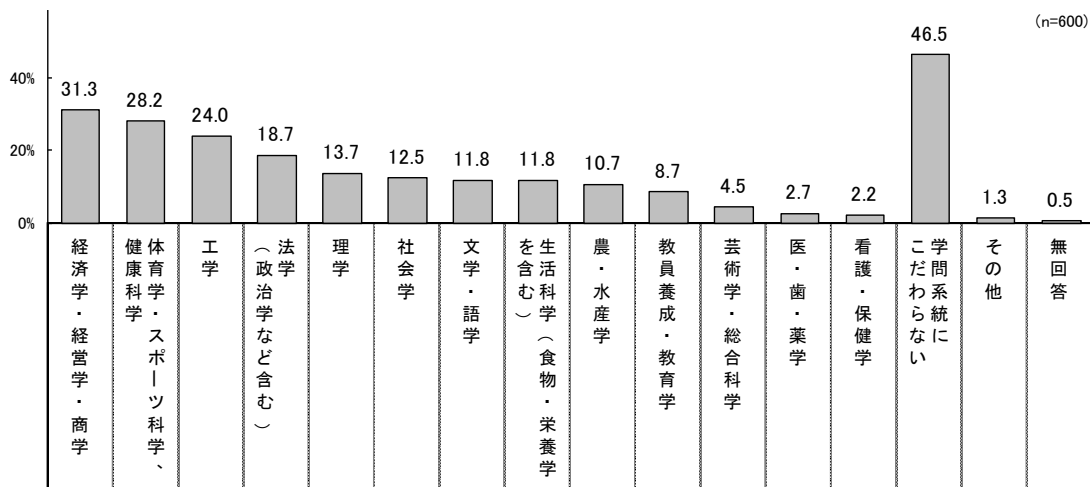
■本年度の採用予定数

Q6. 貴社・貴団体の本年度の採用予定数は、昨年度と比較していかがですか。(あてはまる番号1つに○)



■採用したい学問系統

Q7. 貴社・貴団体では、どのような学問系統の学部を卒業した人物を採用したいとお考えですか。(あてはまる番号すべてに○)

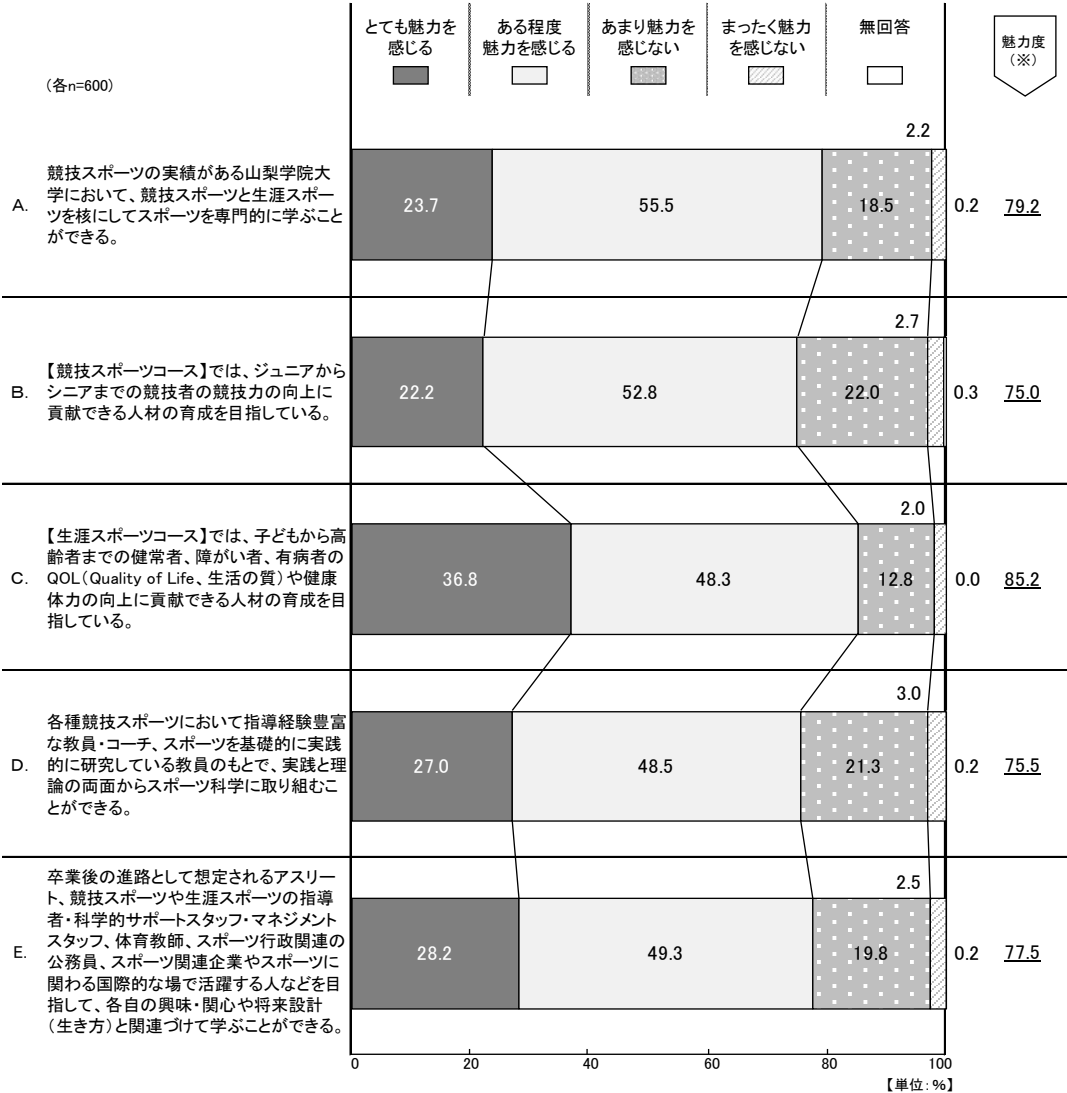


※降順に並び替え

スポーツ科学部の特色に対する魅力度

■スポーツ科学部の特色に対する魅力度

Q8. 山梨学院大学「スポーツ科学部」(仮称、設置構想中)には以下のような特色があります。貴社・貴団体(ご回答者)にとって、これらの特色はそれぞれの程度魅力に感じますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

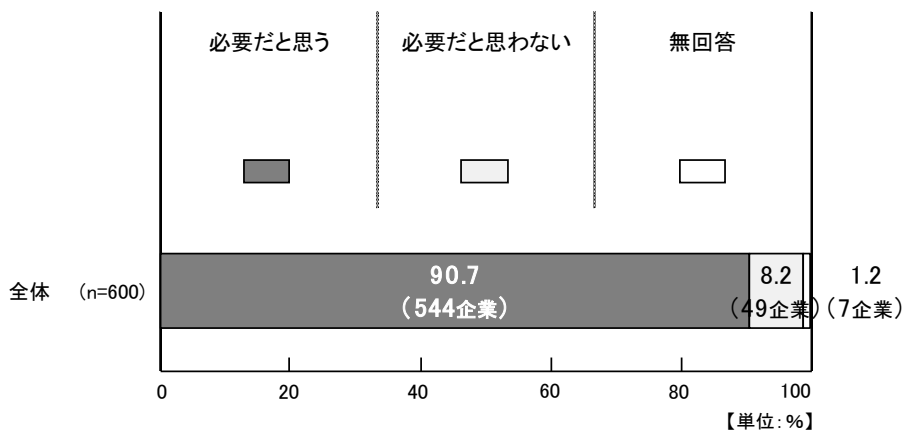


※魅力度=「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

スポーツ科学部の社会的必要性

■スポーツ科学部の社会的必要性

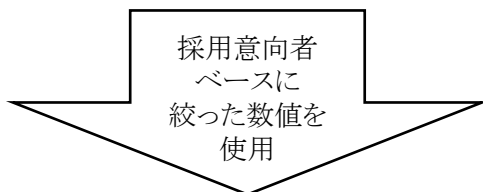
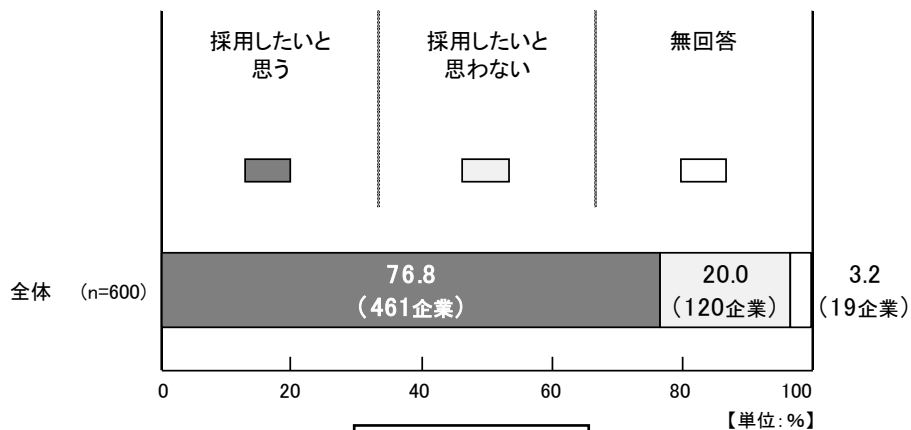
Q9. 貴社・貴団体（ご回答者）は、山梨学院大学「スポーツ科学部」（仮称、設置構想中）は、これからの社会にとって必要だと思われますか。（あてはまる番号1つに○）



スポーツ科学部卒業生に対する採用意向／ スポーツ科学部卒業生の毎年の採用想定人数

■スポーツ科学部卒業生に対する採用意向

Q10. 貴社・貴団体では、山梨学院大学「スポーツ科学部」（仮称、設置構想中）を卒業した学生について、採用したいと思われますか。（あてはまる番号1つに○）



■スポーツ科学部卒業生の毎年の採用想定人数

Q11. Q10で「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。
採用を考える場合、山梨学院大学「スポーツ科学部」（仮称、設置構想中）を卒業した学生について、
毎年何名程度の採用を想定されますか。（あてはまる番号1つに○）

調査数	単位	1名	2名	3名	4名	5～9名	10名以上	人数は未確定	⇒	毎年の採用想定人数・計※（名）
		%								
全体	461	19.1	7.4	4.6	0.4	3.0	2.4	62.7	⇒	407
		件	88	34	21	2	14	11		

※ 毎年の採用想定人数・計
「5～9名」=5名
「10名以上」=10名
「人数は未確定」=0名
を代入し合計値を算出

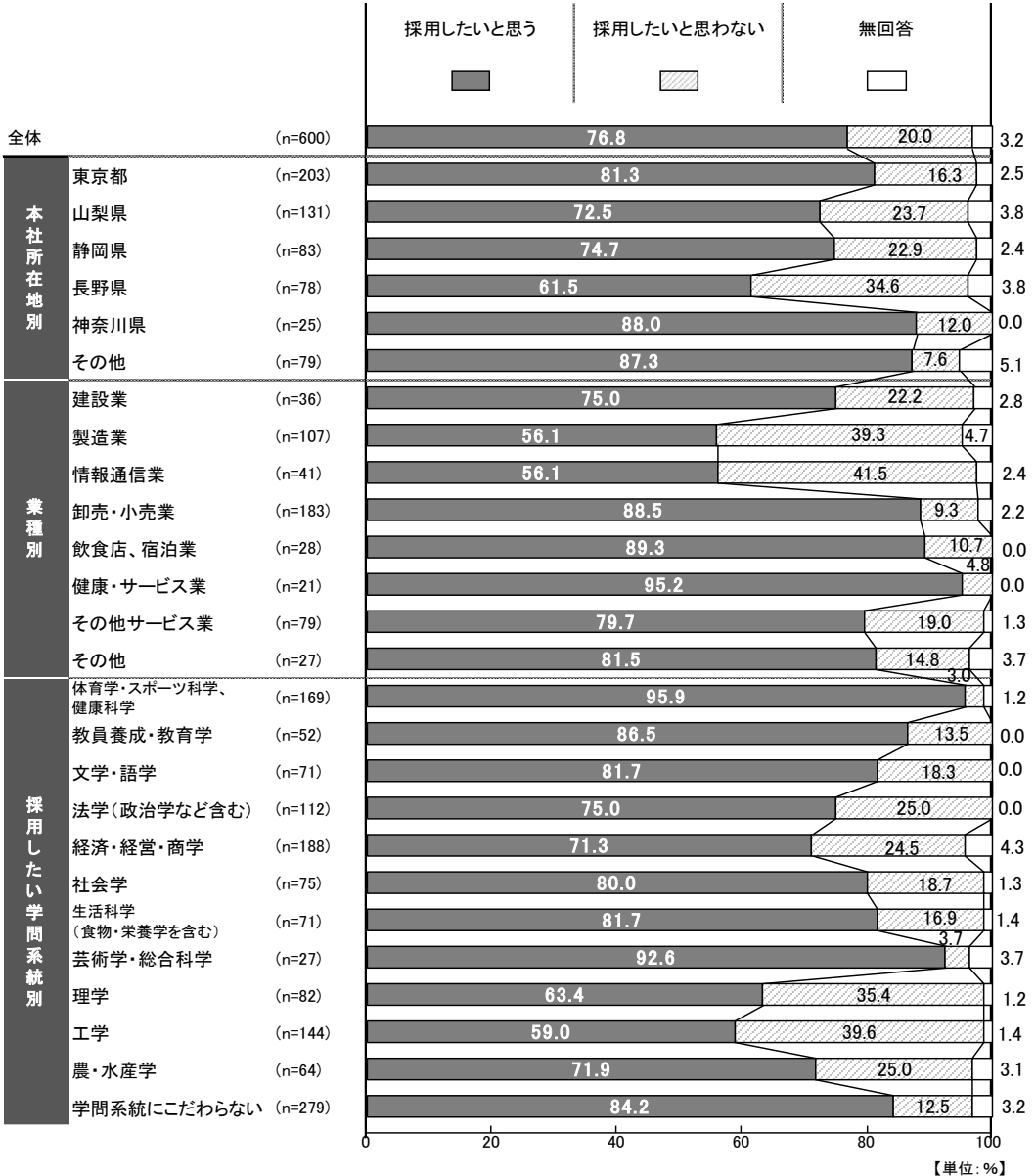
スポーツ科学部卒業生に対する採用意向<属性別>

■スポーツ科学部卒業生に対する採用意向

Q10. 貴社・貴団体では、山梨学院大学「スポーツ科学部」(仮称、設置構想中)を卒業した学生について、採用したいと思われますか。(あてはまる番号1つに○)

<属性別>

※サンプル数20未満は未掲載



卷末資料 調查票



『山梨学院大学』に関するアンケート

山梨学院大学では「スポーツ科学部」(仮称)の設置を構想しています。
このアンケートは採用ご担当者の皆様からご意見をお伺いし、より充実した大学や学部・学科にするための参考資料とさせていただきます。
アンケートは無記名で行い、皆様の個人情報を守ることをお約束いたします。
※ このアンケートや同封した資料に記載されている「スポーツ科学部」(仮称、設置構想中)に関する特色はすべて予定であり内容が変更になる可能性があります。

はじめに、貴社・貴団体についてお伺いいたします。

Q1. アンケートにお答えいただいている方の、人事採用への関与度をお教えてください。

(あてはまる番号1つに○)

1. 採用の決裁権があり、選考にかかわっている
2. 採用の決裁権はあるが、選考にかかわっていない
3. 採用の決裁権はないが、選考にかかわっている
4. 採用時には直接かわかわらず、情報や意見を収集、提供する立場にある

Q2. 貴社・貴団体の本社(本部)所在地について、都道府県名をお教えてください。

本社(本部)所在地

都・道・府・県 ←1つに○

Q3. 貴社・貴団体の業種について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|------------------|-------------|--------------|
| 1. 農業 | 6. 運輸業 | 11. 医療、福祉 |
| 2. 建設業 | 7. 卸売・小売業 | 12. 教育・学習支援業 |
| 3. 製造業 | 8. 金融・保険業 | 13. 健康・サービス業 |
| 4. 電気・ガス・熱供給・水道業 | 9. 不動産業 | 14. その他サービス業 |
| 5. 情報通信業 | 10. 飲食店、宿泊業 | 15. その他() |

Q4. 貴社・貴団体の従業員数(正規社員)について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|---------------|------------------|--------------------|
| 1. 50名未満 | 3. 100名～500名未満 | 5. 1,000名～5,000名未満 |
| 2. 50名～100名未満 | 4. 500名～1,000名未満 | 6. 5,000名以上 |

Q5. 貴社・貴団体の過去3か年の平均的な正規社員の採用数について、お教えてください。

過去3か年 平均

名程度

Q6. 貴社・貴団体の本年度の採用予定数は、昨年度と比較していかがですか。(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|----------|--------|------------|
| 1. 増やす | 3. 減らす | 5. 採用予定なし |
| 2. 昨年度並み | 4. 未定 | 6. 見送り(中止) |

裏面へ続く→

